

リニモテラス公益施設(仮称) 整備基本計画 ＜資料編＞

1. リニモテラス公益施設整備基本計画策定委員会1
2. リニモテラストークセッション11
3. リニモテラスシンポジウム20
4. 関係団体ヒアリング・アンケート28
5. 市民アンケート35
6. 先進地事例46
7. パブリックコメント53

1. リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会

リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 開催経緯

区 分	実施内容
第 1 回	
日 時	平成27年11月16日(月) 午後4時から6時まで
場 所	市役所西庁舎3階 学習室1・2
議 題	(1) リリモテラス公益施設整備について (2) 基本計画策定スケジュールについて (3) リリモテラス公益施設の方向性について (4) 意見交換
第 2 回	
日 時	平成27年12月8日(火) 午後6時から8時まで
場 所	市役所西庁舎3階 学習室1・2
議 題	1 報告 リリモテラストークセッションの開催結果について 2 議題 (1) アンケート、ヒアリングの実施について (2) リリモテラス公益施設整備基本計画(素案)について
第 3 回	
日 時	平成28年2月8日(月) 午前10時から正午まで
場 所	市役所西庁舎3階 学習室1・2
議 題	1 報告 リリモテラスシンポジウムの開催結果について 2 議題 リリモテラス公益施設整備基本計画(案)について
第 4 回	
日 時	平成28年3月30日(水) 午前9時30分から10時30分まで
場 所	ながくてエコハウス 多目的室
議 題	1 報告 パブリックコメントの実施結果 2 議題 リリモテラス公益施設整備基本計画について

1. リモテラス公益施設整備基本計画策定委員会

リモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 委員会名簿

No.	所 属	氏 名
1	長久手市国際交流協会理事	浅井 弘子
2	リニモ沿線合同大学祭実行委員会代表	岡田 百合香
3	公募市民	落合 衣里
4	長久手ファミリー・サポート	古賀 めぐみ
5	公募市民	島田 善規
6	トヨタ自動車(株)トヨタ博物館館長	布垣 直昭
7	なでラボ	野田 真士郎
8	愛知淑徳大学交流文化学部准教授	林 大策
9	SCCC* 代表 * スチューデント・コミュニティ・コラボレーション・センター	藤本 涼子
10	愛知県立大学地域連携センター長	吉川 雅博

(五十音順・敬称略)

第1回リモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 議事要旨

■あいさつ(副市長／市長所信表明)

人口減少社会を見据え、50年先の長久手市の未来像を意識し、リモテラス公益施設が持つべき役割を市民の皆さんと考えていきたい。市民にとって役割と居場所のある長久手市であることを前提に、多様な市民、あるいは長久手市を訪れる人にとってリモテラスがどのように機能するか、皆さんのご意見をいただきたい。

■委員の委嘱

委嘱期間は平成27年3月31日まで

■座長及び副座長の選任

座長は推薦により、吉川委員。座長の指名により、副座長は林委員を選出。

■議事

事務局

事務局からリモテラス公益施設の位置づけ、施設配置・規模、建設予定地の法的制限、整備スケジュール、施設の導入予定機能、整備後の運営について説明

委員

リモテラス構想のこれまでの経過(20年前からの経緯・経過)について、把握している内容まとめ、私見を交えて紹介したい。委員の皆さんにもその内容を共有してもらってから、意見交換をしたいという趣旨で資料を作成した。

リモテラスは「シンボルコア」にするという素晴らしい構想だったが、紆余曲折があり、イオンの商業施設に変わってしまった。わずかに残された公益施設で、もうできなくなったことは何か、まだできることは何か、できるならやるべきことは何かを考えたい。

事務局

公益施設の前面部分の道路については、活用方法について市で検討します。公園と道路の境界の商業施設側は確かに2mほどの段差があります。ただし、公園の中間あたりは30cm程度の段差となり、公益施設よりも公園側が若干高くなります。駅側からだと公園の方が低くなります。

座長

今回の策定委員会の到達目標を、事務局としてどのようにおいているのか。

事務局

4つの機能として、「大学連携」「観光交流」「多文化共生」「子育て支援」と設定してはいるが、特に当初は、委員の皆さんから、それにとらわれず様々な意見を出していただきたい。

委員

一番気になったのは、リモテラスの施設機能は、この「場」の必然に結びついていないのではないか？古戦場公園という場の持つ歴史的背景と、今、話し合おうとしているリモテラスがつながっていないことが気になる。また、なぜ、長久手市が、ここをコアにしようとしているのかが、今ひとつ分かりづらい。

事務局

コンパクトシティの創造の中で、ワンストップ型のコアを作るために、市の中心に位置し、全国的にも発信できる古戦場公園もある長久手古戦場駅周辺が長久手市の新たな顔としてふさわしいと考えて選んだ経緯がある。

委員

ボランティアセンターで仕事をしているのですが、何かしたい、人の役に立ちたいと思っている人が多いことを実感する。そんな人たちの活動の場がここ駅前にできればうれしい。

隣には、歴史に名高い古戦場があるということになれば、歴史性と利便性(商業施設に隣接)を身近に手に入れることができ、人も集まってくると思う。

1. リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会

委員

子育て世代の主婦の意見をいろいろ聞きました。

発信する場として活用したい。幼稚園だと親子セットで行動するため、親同士のつながりがあったが、小学校にあがると、いきなりお互いの顔が見えなくなっていく。それをつなぎとめる場として活用できるのが良いと思う。

また、せっかく多様な機能をここに集中するのであれば、Nパスの編成を見直し、どこからでも長久手古戦場駅に来れるようにしたい。

委員

学生の中には、自分たちの活動の発信の場として使いたい人は多いと思う。

委員

利用することで、愛着がわくようになる。そう思えるような公益施設にしたい。

委員

商業施設があるのはとてもいい。人を集めるのは難しいので、商業施設の集客力をうまく利用すれば、発信の場としてうまく機能していくと思う。素敵なことをやっているなあと思えるようなことができる場にしていきたいと思う。

副座長

自分の時代と比べると、今の学生は地域貢献に対して前向きな人が多い。それをバックアップできる機能をこの施設に持たせることができるとよい。長久手に行くとか何かのきっかけが得られるというイメージを、公益施設から少なからず発信できればいい。

事務局

リリモテラスと同時に、古戦場公園の整備も並行して行っている。歴史的意義よりも、その当時の戦いの距離感を体感できる場としてアピールしたい。再整備された古戦場公園も生かしながら、リリモテラスを考えていきたい。

委員

やり方次第では面白い場になるのではと思っている。居心地の良い長久手らしい場所になれば、自然に人は集まる。何をどう発信すればよいかうまいけば、それができそうな気がする。

昔とは違い、今は発信するというのはいろいろな方法がある。例えば、長久手の動画チャンネルスタジオが公益施設にあり、長久手らしい情報（それが何かはわからないが）を発信し続けるなどして、そこに活気があり魅力につながれば人が集まってくると思う。

委員

ここを貸館として利用していく施設と考えるのか、それとも4つの機能を推進していくための事業を実施していく施設なのか、そこを明確にしたい。この資料を見る限り、後者だと思うが、その際に、一番欠けているのは「担い手」だと思う。

資料には「運営については、原則、行政から手を離し、公設民営」とあるが、整備後の運営管理について、「担い手」がいない状況で民営を前提に議論を進めるのは絵に描いた餅になってしまう心配がある。

事務局

資料にある運営管理の手法は、一つの考え方であり、皆さんと議論しながら結論を出していきたいと考えている。

委員

不安要素はいろいろあるが、まず第一歩を踏み出すべきでは。皆さんの底力や熱い気持ちをいろんな場で感じる。そんな長久手市に手をつなぎ合わせることができるとような公益施設ができ、集まれる場となれば、そこでみんな成長すると思う。

委員

「準備段階から施設オープンまで、推進者となるコンセプターが必要」とあるが、それは重要であると思う。しかし、4つの機能のすべてがわかる人はいない。コンセプターとはどのようなものか明確にしてほしい。

第2回リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 議事要旨

座長

報告事項「リリモテラストークセッションの開催結果について」事務局から説明を。

＜資料1に基づき、事務局からリリモテラストークセッションの開催結果について報告＞

座長

議題(1)「アンケート、ヒアリングの実施について」事務局から説明を。

＜資料2に基づき、事務局からアンケート、ヒアリングの実施期間、実施方法、対象団体、その他の意見募集について説明＞

座長

今回策定するのは基本計画なので、アンケートの目的としては施設整備のキーとなるコンセプトを決めるということでのよいのか。

事務局

行政機能として「大学連携」「観光交流」「多文化共生」「子育て支援」の4つのテーマをこの施設に持ってきていると考えているが、その是非について委員の皆さんに議論していただきたいと考えている。また、来年度予定している基本設計につながるような計画を策定していきたい。

委員

立地条件、広さなどの制約もある中で全ての要望を叶えることは難しいと思う。条件等を十分に理解し、当事者意識を持った人ならば、適切な意見をもらえると思うが、市民に対して漠然とアンケートをすると結果として計画に反映できない内容となってしまうことが心配。

委員

すでにイメージは大きく膨らんでいる。なにができなくなったのか、今からでもできることはなにかということを考えなければいけないと思う。資料3計画(素案)中の表現も含めて、できないことができるようなイメージを広げてはいけないと思う。

座長

それでは議題(2)リリモテラス公益施設整備基本計画(素案)の内容を先に説明してもらってから議論を進めましょう。＜資料3に基づき、事務局からリリモテラス公益施設整備基本計画(素案)について説明＞

委員

市民からの意見をベースに計画を作っていくという話にまとめるのならば、3章の一般に広く意見を聞いた内容は2章の前に記載すべきである。2章で、すでに4つのテーマに絞ってまとめているのに、3章で市民からの意見を集めているのは章立てとしておかしい。

4章が基本計画の主たる内容になってくると思うが、4章についてもいろいろな言葉が使われていて、なにがキーワードなのか分からない。例えば「場」や「施設」という言葉が混在しており、「場」づくりなのか「施設」づくりなのか分かりにくい。

副座長

リリモテラス公益施設は現状の条件提示の中でも自由度の高い素晴らしい施設だと期待しているが、私のように期待している人とこれまでの壮大な計画から紆余曲折を経て期待感が縮小してしまっている人と、どの程度のレベルで歩み寄っていけば良いのか、もしご意見があれば教えて欲しい。

事務局

過去には、公園と大型商業施設と一体的な施設として記載がありましたが、その後大型商業施設内で施設を整備することができなくなり、市の判断で、隣接する場所に整備をしていくことを決めたという経緯がある。市民の方が公園をどういった活用ができるのかということも含めて、公益施設が拠点となるのか議論していただきたい。

1. リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会

副座長

4つのテーマというのは難しいと思う。1つのテーマにフォーカスして、他のテーマをリードしていけるようなアイデアがあるべきだと思っている。

委員

活動団体が育っていく過程で、その組織と活動も変わってくると思う。その変化に合わせてハード面・ソフト面ともに対応していけるような柔軟な仕組みづくりが必要である。また、活動団体を育てるような仕組み、変化を促せるような仕組みづくりも重要である。

副市長

<東近江市「魅知普請 曼荼羅」の事例を紹介>

東近江市では行政はつながりを作る場所を提供しているだけで、活動団体がそれぞれでつながって事業を実施する仕組みができています。つながることによって引き起こされる化学変化を促すには、コーディネーターが必要。

委員

4つものテーマをこの施設に求めると焦点がブレてしまう気がする。例えば4つ入れるとしても、どれか一つに特化したものにすれば良いのでは。また、施設コンセプト「新たなつながりをデザインする施設」というのも「場」があるからつながりが生まれるのか、つながりがあるから「場」が生まれるのかよく分からない。

委員

異なる2つの話が入り混じっているような気がする。皆さんの話を聞いていると交流・連携による化学反応に期待していることが分かる。そうだとすると、どうやって人と人との化学反応を起こすか、公益施設という「場」を化学反応が起きるような場所にどうすればなるのかという議論が一番大事だと思う。

委員

4つのテーマを全て入れようとするのは大変だと思うので、まちづくりセンターが近くにあるので、まちづくりセンターと機能をシェアできれば良いのではないかなと思う。

例えばですが、長久手市を知らないセンター長に就任してもらい、活動団体がその人に活動を知ってもらうためにも、さまざまな行動を起こすというような流れができれば、活動も活発化しセンター長も育ち、ゆくゆくはコーディネーターとしての役割を担ってもらえるのでは。

委員

計画の内容に関して、言葉があいまいで分かりにくいと思う。公益施設に来た人が育っていく「場」になれば良い。化学反応を起こすのはとても難しいので、コーディネーターの役割は重要だと思う。

委員

ベルギーのグランプラスは、世界一美しい広場と言われるようになり、世界中から観光客が訪れるようになった。例えば、4つのテーマというような機能にこだわらず「場」としての魅力をとことん追求するというのも一つの方法ではないか。

副座長

みなさんの意見を聞いているとリリモテラス公益施設は、きっかけができる、つながりができるという「場」になるべきだと思う。子育て世代の人にもなにかきっかけで動きだしたい人はたくさんいると思う。そんな人の後押しができるような「場」になれば十分子育て支援となる。活動者が生まれ、育っていく仕組みも必要。

事務局

本日欠席された委員から事前に意見を聞いている。子育て支援といってもいろいろな分野があるので、それをつなげる仕組みがあると助かる。大型商業施設にある機能や持つべき機能についてはリリモテラス公益施設には必要ない。

委員

4つのどのテーマにおいても施設よりも仕組みの方が優先順位が高いと思う。まず仕組みづくりから進めるべき。そのあと、仕組みのためにはどのような施設が良いのかという検討をした方が良い。

第3回リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 議事要旨

座長

報告事項「リリモテラスシンポジウムの開催結果について」事務局から説明を。

＜資料1に基づき、事務局からリリモテラスシンポジウムの開催結果について報告＞

座長

議題「リリモテラス公益施設整備基本計画(案)について」事務局から説明を。

＜資料2に基づき、事務局からリリモテラス公益施設整備基本計画(案)について説明＞

委員

章の構成が4つのテーマに絞ってから、それぞれのテーマの全般の話をしているので分かりにくいと思います。第2章2は「現状と課題」の項目であるのに、市全体の目的・目標が混ざっているので混乱します。

また、20ページの多文化共生について、多文化共生とうたっているのに内容は国際交流のことしか書いていない。

委員

多文化共生と聞くと、外国人との文化の違いの他に、例えば同じ日本人であっても健常者とハンディキャップを持った人とでは暮らし方や文化が違ってくると思うので、多文化共生をうたうのであれば、国内のさまざまな文化との共生も含めないといけないと思います。

事務局

多文化共生についての基本的な方針を定める計画等を策定するべきであるとは思いますがまだできていません。課題の一つとして捉えています。

委員

国際交流から多文化共生へ転換することが求められていると課題に記載をすれば良いと思います。また、「市民・外国人市民が共生する」という記載を「異なる文化を持つ人が共生する」に変えるべきだと思います。

座長

あくまでリリモテラス公益施設についての計画なので、市全般の記載をすると、リリモテラス公益施設で全てやってもらえる、というような誤解を生じるかもしれない。書き方を考えないといけないと思います。

委員

第1章から第3章と、そこからの第4章の流れが分かりにくいと思うのでなにか工夫が必要だと思います。第1章から第3章でそれぞれの現状を知ることは必要だと思います。

座長

それでは、第4章の内容も含めてご意見をいただければと思います。

委員

44ページからの具体案ですが、すでにやっているような取組ばかりで、期待感が半減してしまう気がします。具体案が無い方がイメージが膨らんで良いのではないのでしょうか。

委員

「リーディングプロジェクトを実施する」という記載が前のページにあるので、その後に具体案がくるとリーディングプロジェクトの具体案だと思ってしまう。

委員

自由度が高く、成長していける、とても魅力的な場だと思いました。読み進めていくと具体案が具体的過ぎて、みんなでなにか新しいものを生み出そうという力の妨げになってしまうのではないかと思います。

1. リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会

事務局

具体案については、プロジェクトの内容というよりも主体となる人たちの新たな組み合わせの例を示したくて書いています。少し内容を整理させていただきます。

副市長

事業そのものというよりも、個人、団体がつながり、変わるきっかけをつくる場所というようなイメージで表現した方が期待感を損なわずに良いと思います。

委員

リリモテラスにおける提案書を作成しました。学生の視点からリリモテラス公益施設が、こんな場になって欲しいということでまとめております。基本計画(案)の内容としては、施設運営についての記載が少ないので、リリモテラス公益施設という場がどういうふうに関能していくのかが想像しにくいと思います。

副座長

まちづくりやボランティアに対しての意識が高い学生は一部だと思います。学生の目線から、リリモテラス公益施設という場がどんな場になれば、学生が集まるような場になるのかせっかくなので教えて欲しい。

委員

学生は就職活動に向けてボランティア活動を始めの子が多い。(初めから興味がる子は少ない) 自分がなにをしたいのか、なにができるのかを分からない学生が大半なので、やりたいことを掘り起こしてくれる人(アドバイザーなど)がまず必要だと思います。そこでみつけた自分のやりたいことを実際にやってみることによって、自分にはこんなことができるんだということが分かると学生は楽しさを見出して継続できると思います。

座長

施設運営については、記載が少ないですが来年度の一つの課題ということでよろしいですか。

事務局

リリモテラス公益施設という市としても新しい取組の中で、施設運営については具体的な議論ができていないので、来年度に方向性について慎重に検討していきたいと考えています。

委員

個人的には、組織、集団が育つしくみをリリモテラス公益施設に最も期待しています。しかし、その記載がほとんどありません。つながりというキーワードがよく出てきますが、つながりというのは組織がまずしっかり育っていることが前提で、そこから組織同士がどうつながっていくかが重要です。

委員

組織を育てるためには資源をいかに供給していくかが重要だと思っています。資源というのは人もそうですが、場所、お金などいろいろなものがあると思います。今の書き方だとコンサルティングなど限定的に書いてあるので、もっと広い意味での資源として記載して欲しいです。

委員

39ページの図中に、大学生との連携についての記載がありますが、知的財産としての大学、大学生がリリモテラスを拠点にどう絡むか、市民にどんなアピールをし、協働していくかを考えて欲しいと思います。

座長

さまざまな意見が皆さんあるかと思うので、意見の集約等今後の進め方を教えてください。

事務局

パブリックコメントが3月15日まで実施されますので、それまでに、ご意見等ありましたら事務局までお願いします。

第4回リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 議事要旨

座長

それでは、報告事項「パブリックコメントの実施結果について」事務局から説明を。
＜資料1に基づき、事務局からパブリックコメントの実施結果について報告＞

委員

市の考え方がどれも曖昧な表現で、意見を出した人は納得ができないと思う。もう少し説明を追加してはどうか。

委員

現実問題として、大学生と高齢者とのつながりがどこにあるのか、という意見がありますが、実際には、そういった活動をしている学生は市内にたくさんいる。こういう意見が出てくるということは、やはり情報発信がうまくできていないことが原因だと思うので、リリモテラス公益施設内に情報発信をしていけるようなものと良いと思う。具体的な設置要望がある意見については、もう少し寄り添った回答ができると良いと思う。

座長

議題「リリモテラス公益施設整備基本計画について」事務局から説明を。
＜資料2に基づき、事務局からリリモテラス公益施設整備基本計画について説明＞

委員

46ページのイメージ②に「ママ」という記載があるが、不適切だと思います。「母親」で良いと思います。

委員

45ページ図中子育て支援の「若い主婦」「おじさん」「おばさん」という表現も不適切だと思います。みんな同じ立場であるというような表現に変えて欲しい。

委員

観光交流協会は、長久手のイイ暮らしを発信していくという方向性で進めているので、45ページ図中観光交流の「新しい観光スタイル」を「長久手らしい観光スタイル」に、「観光イベント」を「観光交流」に変えて欲しい。

委員

個性の混ざり合いというような考えが根底にあると良いと思う。

委員

一番大きな問題は、これから運営していくにあたって、管理、運営手法等を決める決め方がはっきりしていないということだと思う。来年の今頃は設計が固まっているスケジュールだが、今年のような進め方ではどうなるか心配だ。決め方を市民が決めるようにすると、とてもスケジュールが間に合わないと思う。決め方を決めるのは行政側が決めるしかないと思うので、来年度早々に決め方を決めて欲しい。

また、51ページには「市民主導」と記載があるが、市長の所信表明でも「市民主体」としか言っていないと思う。「主導」とするとは、平たく言えば市民の方が行政よりエライのだということになるが、そんな仕組みが実現できるのか。ところが、「市民主導」とあるが、さらに「運営協議会の意向を受けて、日常の運営(管理)を行う事務局を設置」とある。市民が参加する運営協議会というのは意向を示すだけという意味にも理解できる。「主導」するのか、ただ意向を言うだけなのか読む人は混乱する。

運営協議会が多様な市民団体で構成することは良いと思う。個人の集まりでないことがポイントだ。ただ、長久手の問題点は市民の組織、集団が育っていないことだと思っているので、市民の組織、集団がうまく育っていない過渡期にどうするかという大きな問題が必ず生じてくる。その時に、どうやって、どのような手続きで誰が決めるのかという決め方を示しておく必要があると思う。もし、この運営協議会が大きな権限を持つことになるのなら、運営協議会のメンバーは選挙で選ぶ必要があると思う。

第4回リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 議事要旨

事務局

今のご意見について、市の中では十分に議論ができていないので、参考にさせていただき検討を進めていきます。

委員

十分に議論をして、管理、運営についての決め方を早急に決めてください。

座長

ありがとうございます。それでは他にご意見がないようですので、次第を進めて4. その他ということではなにかある方はいらっしゃいますか。

事務局

来年度については、この基本計画を基になるべく多くの市民のみなさんに関わってもらいながら基本設計を策定していきます。運営手法の検討等も並行して進めていきます。詳細については市の広報紙等で情報発信をしていきますのでよろしくお願いいたします。

委員

建物の設計等のハード面と運営等のソフト面について、市民参加の議論の場として二つあるということですか。

事務局

方法も含めて検討しているところです。
それでは最後に副市長から挨拶を申し上げます。

副市長

様々なご意見をいただきありがとうございました。一般的には施設設計は、専門家だけで進めていきますが、この施設は出来上がった後が重要だと思いますので、出来上がる間も含めて、市民のみなさんにどう関わってもらうかが大事だと思っています。決定権は市にあると思いますが、市が途中で責任を放棄することなく運営手法についてもしっかりとマネジメントしていけるようにします。イニシャルコストはどうしても発生すると思いますが、建設後の運営費については、なにかしらで収益をあげ、それで賄っていくようにしていきたいと考えています。市民のあり方、様々な価値観が混じり合って新しい創造的なものが生まれてくるのではないかなというようなことを達成する可能性のある唯一の施設だと考えています。あまり時間はありませんが、集中的にここを整備させていただき、新しい概念としての公共施設を目指していきたいと思っています。

座長

ありがとうございます。それでは、本日の議題はすべて終了しましたので、リリモテラス公益施設整備基本計画策定委員会を終わります。ありがとうございました。

開催概要

【開催日時・場所】

平成27年11月21日(土) 午後2時から午後4時まで 西小校区共生ステーション

【タイトル】

リリモテラストークセッション ～「場」をつくる!「場」に出会う!～

【開催目的】

市民にとってどんなリリモテラス公益施設となったらよいと思うか、その意見・アイデアを広範に収集するため、自由参加のトークセッションを実施。

当該施設の方向性を導き出すのに有益なゲストを招き、全国各地の公益施設の事例を紹介し、参加者からの意見を引き出しやすくするとともに、あわせてアンケートも実施。

■パネラー

宇田川裕喜	(うだがわ・ゆうき)	株式会社バウム代表
根岸 えま	(ねぎし・えま)	からくわ丸
佐々木美穂	(ささき・みほ)	気仙沼地域エネルギー開発(株)
小町 香織	(こまち・かおり)	からくわ丸

■サブパネラー

藤本 涼子	(ふじもと・りょうこ)	SCCC代表
飯田 諒子	(いいだ・りょうこ)	Do Nabe net in あいち代表
野田 真士郎	(のだ・しんじろう)	未来とコラボ(なでうボ)
春山 由加里	(はるやま・ゆかり)	主婦(なでうボ)
中尾 真也	(なかお・しんや)	造園業(なでうボ)
岡田 百合香	(おかだ・ゆりか)	リリモ沿線合同大学祭実行委員会代表

■コーディネーター

林 大策	(はやし・だいさく)	愛知淑徳大学交流文化学部准教授
------	------------	-----------------

【参加者数】 66名(一般参加者45名 スタッフ・講師等21名)

登壇者等の発言・トーク内容の要旨

■長久手市吉田市長 あいさつ

今回のリリモテラス公益施設については、コンサルタントや有識者に考えてもらい、そのアイデアにパブリックコメントをもらって完了という近道をして早く完成させるのではなく、遠回りをして多くの市民の意見を聞く施設づくりをするべきだと考えている。

そうすることで、多様な市民に役割が生まれてくる、担い手も育つ、時間はかかるがそれを待つこと……。これからの人口減少社会には、そんな手法が必要となってくると考えている。

足腰の強いまちづくりをすれば、自然とまちに物語が生まれ、それがまちの魅力になる。

■宇田川裕喜氏 事例紹介

・多様な人びとをつなぐ「場」を創出するデザイナー

「場」とは、経験・体験の共有。その共有が関係になる。どんな体験をすれば、どんな関係が築けるのか。それらを意識して、「場づくり」を実践。

東京・丸の内のビルの中の「ECOZZERIA」という場

仕事場で自分の存在意義の希薄さを感じている人が多いので、社外・横断的コミュニティづくりとして「丸の内朝大学」を始めた。

パークシティ大崎 公民館とカフェを合体させたような施設

箱ではなく、おしゃれなカフェを……。 (どんな人が住んでいるのか知るための吸引施設)

DO! SAKI というイベントを行い、ビール1杯の売り上げから100円を子ども向けのイベントに拠出。

日本橋三越 はじまりのカフェ

みんなで何かできるようなきっかけを与えるカフェ。ワークショップも積極的に行っている。(お金を持っている中高年の人たちのため)

その他、大学連携による子ども向けワークショップを開催するボストン市、市民自治から居心地の良い街をつくったポートランド市などの事例を紹介。

L e a r n (いろいろ話す、知る、集める) ⇒ D e s i g n (アイデアを組み立てる) ⇒ T e s t (ちょっとやってみる。実験してみて効果を見える) ⇒ M o d e l (ビジネスモデルを作る)

こんな組立で、その地域にふさわしい「場」づくりを行ったらどうか。

登壇者等の発言・トーク内容の要旨

■PENターン女子

3人の女子大学生が、なぜ、唐桑半島に移住したのか。それは、震災復興ボランティアから始まった。それぞれに、「地域の人」との大きな出会いがあった。

東京都出身 根岸えまさん

大学を1年間休学し、震災ボランティアを行い、からくわ丸という復興支援団体を立ち上げた。大学に復学し、就職活動も行い、内定をもらったが、ある漁師との出会いによって、気持ちが変わった。強い当事者意識を持った人と一緒に働きたいと思い、東京での仕事を断って、まちづくり会社を立ち上げた。

兵庫県出身 佐々木美穂さん

ハンセン病のボランティア活動（海外）を行っていたが、震災のニュースを知り、海外から日本に戻った。がれき撤去のボランティアをやっているうちに、住民の皆さんに力をもらうことが多く、こういう顔の見える関係の中で仕事がしたいと思うようになり、内定を断って唐桑で働こうと思った。

富山県出身 小町香織さん

震災の年に仙台の大学に入学 気仙沼の人に触れて、その人たちの魅力にひかれて興味を持った。また、根岸、佐々木のように、内定を蹴ってまで、唐桑を選びそこで働こうという同世代の人に突き動かされた。

ボランティアの拠点として「h o m e」をつくったが、地元の若者たちも集まり始め、いろんな話をするようになり、その過程を通じて、子どもたちとの畑のプロジェクトが生まれた。週に一回ミーティングも行われるようになった。

「h o m e」は、移住者と地元の人がつながる場所。地域に必要な活動が生まれる場所になっている。外の目と内の目が交わることで良い活動が生まれていると思う。ポジティブな気持ちがどんどん芽生えている。

「震災」という特別なことがあったから、今があるが、これから唐桑が日常に戻っていく中で、どうしていくべきか。今後のきっかけづくり（動機づけ）が重要だと考えている。

登壇者等の発言・トーク内容の要旨

■長久手市で活動をしているみなさんの紹介とリリモテラス公益施設に対する意見・アイデアなど

■岡田百合香さん(リニモ沿線合同大学祭実行委員会)

大学が4つあるので、横の関係を作ろうと合同大学祭が始まった。拠点がなく活動しているので、やってきたことをストックしておく場としてリリモテラスが機能すれば良い。学生にとって、このまちは通過点、拠点があれば戻ってこられる。

■藤本涼子さん(SCCC)

大学で学んだことが地域にとって何か役に立つのか、懐疑的に思っている人が多いので、それが実感できる場があればよいと思う。PENターン女子と同様、地元出身じゃないと大学生もよそ者である。よそ者たちが地元の人と何かをやる面白いいものが生まれるのではないかと考えている。

■飯田諒子さん(Do Nabe net in あいち)

鍋を通じて顔の見える関係を作ろう。きっかけは、震災での安否確認。顔の見える関係の大切さに気付いた。

■野田真士郎さん(未来とコラボ・なでラボ)

『ながくてできたてラボラトリー』長久手市民と若い市の職員が集まって、30人ほど。関係性をはぐくんでいる。自分も含め、もともとこのまちの出身ではない人は多いと思うが、こういう熱い人が多くの世代にわたっているまちだということを見ると、人が観光資源ではないかと思う。自分たちのふるさとを作るといふ思いを実現する場として、リリモテラスが機能すると面白い。

■春山由加里さん(主婦・なでラボ)

長久手に住むようになって5年。地元に縁がないので、震災などがあつたらという不安もあった。その関係を作るためになでラボに参加。

宇田川さんの東京の事例を聞いていて、カッコいいなと思った。学生さんや若い人も多いので、カッコいい場所づくりは大切だなと思った。

■中尾真也さん(造園業・なでラボ)

造園業をしている関係もあり、家の前が耕作放棄地だったので、畑を作った。それが縁で、いろんな人との関係ができ、「場」が生まれた。

畑づくりのように外に出て何かやっていると、「何やっているの?」といいながら人が近づいてくる。リリモテラスも外に出てやる、外から見えるようにする、ということをどんどんやるべきだと思う。

2. リリモテラストークセッション

聴講者の意見・アンケートなどの要旨

【リリモテラス公益施設へのアイデア・意見(キーワード提案・発言)】

- ・「楽」にであえる場 近所の居酒屋のような、出会って2秒で友達のような場、仕組みができれば。
- ・「はじめまして」 話を聞きながら、「はじめまして」といわなくてもいいような場にしたいと思うようになった。
- ・「いろり」 PENターン女子の話を聞いて、何か話し合いができる雰囲気作りが互いを知る第一歩だと思い、みんなが集まれる場づくりとして「いろり」というキーワードを入れた。
- ・「古戦場との関係性」 小牧・長久手の戦いがあった古戦場も意識してほしい。
- ・つながる、つづける、つくりだす場だとよいと思う。長久手が好きと思う人が増えれば、来てもらった人、隣の人にもやさしくなれる、よいところを紹介したいと思う。長久手を好きという想いをどう創るか、どんな体験だとそう思えるか

【アンケートへの回答】

■あなたはリリモテラスに何を期待しますか。

つながり 交流 出会い	交流サークルの拠点
	交流の場
	自分(個)を社会につなげていく場
	お役にたてる人をつなげる場の提供
	出会い、共有できる場
	新鮮な出会い
	長久手市に長く住んでいる人もそうでない人も学生も社会人も高齢者も共に活動ができる場に
	出会いの場、スタートの場とするなら、いろいろな切り口のあるバラエティに富んだ人々の場にして欲しい。でき上がったらおしまいではなく、成長する場、変化に対応できる施設として欲しい。ソフトの充実なしに完成はなし、常に未完成で可能性を持った場に。
	同じ体験、時間を過ごせるような仕組み。楽に人と出会えるそんな場所がよいと思う。
	顔の見えるつながり
大学連携	日頃からのつながり
	リリモ沿線大学生の集いの場
観光	学生のまちとして、SCCCを是非(近隣含め12大学)
	観光スポット
	イベントの場(桜まつり等)
	イベント(WS)会場
子育て	賑わいの場
	学童や保育施設(子育て支援)
	子どもが(大人も)自由に創造できる場

2. リリモテラストークセッション

聴講者の意見・アンケートなどの要旨

古戦場	古戦場の歴史が分かりやすい紹介コーナーの設置
	古戦場公園とのすみ分け(役割分担)をしつつ、連携しながらゆるく楽しいわくわくする場として欲しい。
	古戦場も活かせる、長久手の資源である人を最大限に活かせる場になってほしい
	古戦場とのつながり
	郷土史の研究とのつながり、入り口として
	日本一の火縄銃保有
誰でも・気軽に	みんなが楽しめる場
	交流の場にこだわらず、なんの目的もなく気楽に楽しめる「場」
	「気楽に」「ついでに」でも「わざわざ」でも誰もが行ってみたいくなる場になるとよい
	若い世代(現役世代、学生など)が暇なときに立ち寄っただけでもわくわくできる場になってほしい
誰でも・気軽に	いつでもだれでも気軽に立ち寄れる場
	なんとなく立ち寄れる場
	オープンスペース、開かれた場であること
	高齢者から幼児まで健常者からハンディキャッパーまで集まりあう場に
その他	市民から愛される場
	中尾真也さんの話を聞いたらリリモテラスは必要ないと思う
	木のぬくもり
	市民参加できる場
	緑がたくさん
	常に作り続けていける未完成な場
	場という言葉を身近に感じました。リリモテラスに素敵なお場を期待します
	フューチャーセンター ・充実した会議室(防音、壁面WB) ・アルコール可能な場所 ・1dayシェフが活躍できる厨房 ・まちづくり団体の情報が集まり相談できる場 ・健康寿命を延伸するための施設(例えばタニタ食堂、体組成計測器)
	長久手のシンボルコアをここに
	シニア、子どもを活かす場
	集まった人たちの手で愛着を持ってどんどん変わっていける場(ソフト、ハード共に)
	変わらないコア
	どの自治体も世代の継承に悩んでいる。リリモテラスが活動、まちづくりの人、世代の継承の場になりそう。戻ってこれる場所を創るには受け入れる施設も大切。
	場の豊かなイメージが出ました。形がない形をリリモテラスには求められていると思った。どう形にしていくのか、リリモテラスへの期待は大きい

2. リリモテラストークセッション

トークセッションのまとめ

リリモテラス公益施設の基本計画につながる意見の抽出

①宇田川さん、PENターン女子の事例トークに対する聴講者の意見

■宇田川さんの「場」に対する考え方への共感者が多い

「場」とは、体験・経験を共有するところ。その行為が、人と人との関係性をつくる。



「経験の共有の場としてリリモテラス公益施設」という位置づけで
さまざまな角度から活用方法を検討したい。

■PENターン女子そのものへの共感

「積極的に活動しているPENターン女子は本当に素晴らしい」「違う環境にいても、人と人の
つながりに対する想いの根底は似ていると思った」などの意見。



「home」という拠点が、よそ者と地元の人との関係を深くしていく
基盤になっているが、「リリモテラス公益施設に対しても、こうした
多様な主体の連携を生み出す場としての期待がかかる。

②聴講者から出たリリモテラス公益施設に対するキーワード

ラクに出会う＝気軽に集えて、気軽に出会える場所
「はじめまして」＝出会いをつなぐ場所
人と人が出会いをワクワク感じる場



出会いの場

いろり＝みんなが集まるきっかけになる場所
飲み屋・飲み仲間
やりたいことが見つかる場



きっかけの場

楽しい事を実現
自分のまちだと思えるモノ
顔が見えるつながり



アイデンティティ構築の場



「出会い」「きっかけ」を促し、多様なつながりが構築されることによって、
自分自身と自分が暮らす街のアイデンティティを発見することができる
ような場づくりへの期待

2. リリモテラストークセッション

トークセッションのまとめ

③聴講者アンケートからリリモテラス公益施設につながる意見を抽出

■「場」づくりについて

「場があって人が来るのではなく、人が集まって場ができる」という言葉への共感や、「やさしさの循環できる場づくりができればいい。単なる消費ではなく誰かを幸せにするためにお金を払う、そういう仕組みを作っていきたい」など、「場」に対する意識の変化が見られた。



「施設」ありきではなく、何をすべき「場」への問いかけや、消費の場ではなく公益の場としての視点を重視

■つながり・交流・出会い

「自分(個)を社会につなげていく場」「お役にたてる人をつなげる場の提供」をはじめ、「長久手市に長く住んでいる人もそうでない人も、学生も社会人も高齢者も共に活動ができる場」や、「でき上がったらおしまいではなく、成長する場、変化に対応できる施設としてほしい。ソフトの充実なしに完成はなし、常に未完成で可能性を持った場」という前向きな意見が多かった。



多様な主体の連携と、それによって、市民が成長、発展していく可能性を持った場としていきたいという意向が強い

■大学連携、観光交流、子育て支援など

いずれのテーマに対しても、活動やイベントなどへの期待は高い。



大学連携拠点や観光への新たな視点が見える場としての期待とともに、古戦場公園との連携にも視点を置くべきという声は強い

■リリモテラスへの期待と持つべき精神

「どの自治体も世代の継承に悩んでいる。リリモテラスが世代の継承の場になりそう」「場の豊かなイメージが出ました。形がない形(形がないところから始めること)はリリモテラスには求められていると思った。どう形にしていくのか、リリモテラスへの期待は大きい」

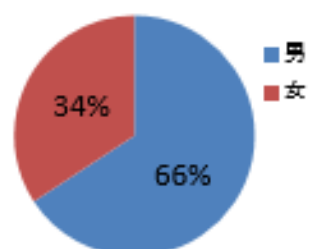


長久手市が内包する価値を若い世代へ資産継承する場、あるいは形のないところから市民が関わり創る場、などの意味を大切にしたい

【参考資料】アンケート(回答総数38件)

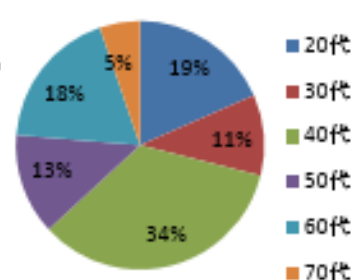
(1) 男女比

男性 25人
女性 13人



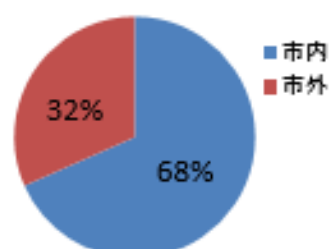
(2) 年齢

20代 7人
30代 4人
40代 13人
50代 5人
60代 7人
70代 2人



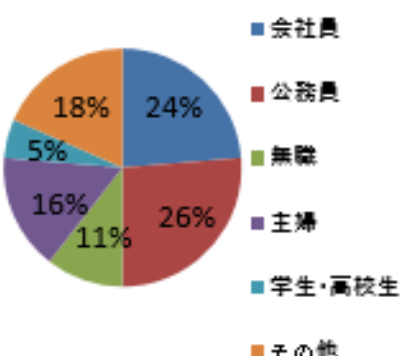
(2) 住まい

市内 26人
市外 12人



(3) 職業

会社員 9人
公務員 10人
無職 4人
主婦 6人
学生・高校生 2人
その他 7人



開催概要

【開催日時・場所】

平成28年1月24日(日) 午前10時から正午まで 長久手市まちづくりセンター 2F集会室1

【タイトル】

リリモテラスシンポジウム ～「場」をつくる! 「場」に出会う! Vol. 2～

【開催目的】

市民にとってどんなリリモテラス公益施設となったらよいと思うか、その意見・アイデアを広範に収集するため、参考となる地元の2つの事例をパネラーから紹介してもらい、市民からの多様な意見を引き出すシンポジウムを開催。あわせてアンケートも実施します。

■パネラー

田尾 大介	(たお・だいすけ)	(株) ツーリズムデザイナーズ 代表取締役
古橋 敬一	(ふるはしけいいち)	港まちづくり協議会事務局次長
浅井 弘子	(あさい・ひろこ)	長久手市国際交流協会理事
野田 真士郎	(のだ・しんじろう)	未来とコラボ (なでらぼ)

■司会進行

小林 拓一郎	(こばやし・たくいちろう)	ラジオパーソナリティー
--------	---------------	-------------

【参加者数】 72名(一般参加者58名 スタッフ・講師等14名)

登壇者等の発言・トーク内容の要旨

■小林拓一郎氏 あいさつ リリモテラス公益施設の概要紹介

「リリモテラスシンポジウム ～「場」をつくる！「場」に出会う！V o 1. 2～」の来場者に対する挨拶の後、リリモテラス公益施設とは何かを紹介するため、「なでラボ」のメンバーで「リリモテラス公益施設」を検討する市の委員会のメンバーでもある野田真士郎さんが概要説明を行った。

野田さんとともに検討委員会の委員である国際交流協会理事の浅井弘子さんのお二人が本日の市民パネラーであることを紹介した。

さらに、11月に行われた「リリモテラストークセッション～「場」をつくる！「場」に出会う！」の模様と、意見として「さまざまな出会いやつながり、交流が生まれる場所になってほしい」「誰でも気軽に行けて楽しめる場所になって欲しい」「隣接する古戦場も活用してお互いを活かせるような場になってほしい」などの意見が出たことを伝え、それらをふまえながらみなさんと一緒に新たな「場」づくりを考えてみたいという趣旨を案内した。



■田尾大介氏 事例紹介 カフェレストラン&ゲストハウス「西アサヒ」の運営

歴史ある名古屋の商店街の一つ、円頓寺商店街。地域に住む人が少なくなるとともに、商店街の集客力が減り、住人の高齢化が進む中、これまで地域に縁のなかった人が新たに場の力を生かしたビジネスを始めた。

昭和7年創業の喫茶店西アサヒは、名物の「たまごサンド」のブランド力を残しながらも、店主を継ぐ人もなく店を閉じようとしていた。

そこに、商店街の活性化のために尽力してきた人からの声がかかり、まったく地域とは無縁の人（外から入ってきた人）が、店に新しい価値を吹き込むため、これまで考えられなかった新コンセプトの「場」を生み出した。

それは、国内外の個人自由周遊型旅行者を対象に宿泊機能を新設した「西アサヒ」。喫茶、食堂、民宿併設型の中部地域初となる場の誕生だ。

それは、地域や国を越えて人がつどい文化交流ができる、ローカルでインターナショナルな場。その場を利用する人たち（外国人観光客、市外からのビジターなど）の客観的な視点を持って、常識を覆す場づくりが始動しはじめました。



登壇者等の発言・トーク内容の要旨

■古橋敬一氏 事例紹介 学びの場「ポットラックスクール」の運営

大学院生時代に、瀬戸市の商店街活性化事業や、愛知万博におけるエコレストランの運営に携わり、その後名古屋市港区の港まちづくり協議会で、外から来た者の視点を生かしたまちづくりの取り組みを行っている。

そこで最近行っている取組は、ポットラックスクール。ポットラックとは、「あり合わせ/持ち寄りの料理」という意味。今ある資源を活かす場所や時間を共有し楽しむ人間の創造的な営為で、この地域を拠点に多様な活動を行っている人と住民、あるいは名古屋市民が、学びを通じて“明日を考え、行動する”場として始動した。



■小林拓一郎氏 事例紹介 「ポートランドリビング」の開催

アメリカオレゴン州に留学していた小林氏が、今、全米でナンバー1の住みやすいまちに選ばれたポートランド市の魅力を紹介。その精神を共有するという視点で、名古屋近隣地域で始めたのが「ポートランド・リビング」というイベント。不便かもしれないけど、市民がこれがいいと思ったことを選択し、その総体を受け入れ、そのまちに生きることの喜びを知るという精神を、リリモテラス公益施設にも生かしたら・・・。

「場」があれば、新たな出会いがあり、出会った人を通し、今までには考えられなかった新しいものを生むこともある。そんな経験の積み重ねが、田尾さんにも、古橋さんにもある。



■市民パネラー(浅井弘子氏、野田真士郎氏)のコメント

浅井さん

若い人が、地域を大きく変えているんだということに感動した。でも、世代ではなく、そこに必要なのは想いであり、あなたと私の対話なんだということを改めて感じた。

野田さん

そこにある場の力ってなんだろうと考え、発信し続けることで、人を巻き込んでいくことができる。それを伝えるために、デザインの力は重要なんだということを、田尾さん、古橋さんのプレゼンテーションを見ながら実感した。

参加者との意見交換

長久手にも場を再生させ、地域の人をつなぐ役割を担っている事例がある。

無くなった喫茶店を復活させ、生活支援センターとして地域の困ったことを吸い上げる場（カフェ）を運営しているという事例がある。普通の市民がボランティアで行っている。リリモテラス公益施設にもそんな精神が息づくといい。

施設ではなく、どんな場をつくるべきかという視点が、それぞれの事例にあった。

（田尾さんへの質問／イベントで集まった人をどのように日常化していくのか？）

街全体を埋め尽くすのは難しい。ただ、自分の場については、毎日人が来てくれるよう努力する。その積み重ねが核になる。（そう考える人や店が増えれば、商店街全体がにぎわう）でも、それには特効薬はなく頑張るしかない。

（古橋さんへの質問／勉強会がプロジェクトになるには？）

虹の戦士という言葉がある。一人で物事を解決するのは無理。個性を持ち寄った人が集まるから何とかなる。人が持っている力をどう捕まえるか、それをいかに取り込もうと考えるか。そういう場を継続することがポットラックススクールの意味かと。みんないろんなことを知りたいし、学びたいと思っているので、リリモテラス公益施設でもそれをやればいいんじゃないか。

（小林さんへの質問／ポートランド市の何がそんなにすごいのか？）

市民の意思で、大量生産大量消費型の社会システムを拒否し、都市境界線（成長限界領域）を決め、それ以上の自然破壊を行わないようにしたこと、それに共感した若い経済人が、このまちに集まってきている。シンプルな生き方に戻りたいという意識、その民意で街が回っている。

まちづくりは少数の人が引っ張るべきか、やはり多くの人の合意が必要か

（田尾さん）

めんどくさいことをしないと大きなムーブメントは起きない。思いはあるし落としどころ持っていて、強引にやっては人は動かない。（巻き込んでいく）

（古橋さん）

漠然としたみんなの想いを誰かが声に出して言うということも大切。行動を見て、共感者がそれを支える行動でイエスを示す、ということもある、そういう関係性をつくるのが大切なのかも。

場の運営には調整役は必要か

（古橋さん）

自分のやり方としては、やりたいようにやらせるが、責任は自分がとると宣言する。それが自分の役割。

登壇者等の発言・トーク内容の要旨

（田尾さん）

想いが一番だが、それだけではできない。勉強、スキルにはこだわっている。事業として成り立って初めてまちづくりだと思っている。その空間にいる人の多くが幸せにならなければいけない。円頓寺には、多様なプロがいる。想いの実現にはそれぞれの人のスキルがいる。（その調整役は必要かも）

その他の意見

- ・ こうした勉強会を開き、市民の意見をきっちり聞いて合意形成の上でやっていくという手法はとても良い。大学生の人に使ってもらいたい施設だ。
- ・ 大学生が社会にどうかかわっていくかということが、できる場としていきたい



参加者アンケート

①リリモテラス公益施設は、市民にとってどんな場になればよいと思いますか

1. やすらぎの場 20人 2. にぎわいの場 28人 3. 学びの場 18人 4. 遊びの場 18人
5. 活動・発信の場 29人
6. その他(交流の場 3人 体験の場 1人 スポーツ拠点 1人 日本的なもの 1人)

【具体的なイメージ】

- ・学生と協働して運営・活動する場
- ・古戦場公園のガイド窓口、長久手の史跡めぐりの総合案内所
- ・市の行事の情報発信の場
- ・子どもから高齢者まで、気軽に過ごせるボランティアカフェ
- ・学生が学んだことを発表できる場
- ・江戸時代の建物や古民家を移築し、土や木、花などに囲まれた場
- ・まちづくりに興味を持っている人たちが集まり話ができる場（何かやりたい人のきっかけの場）
- ・長久手の玄関口として、長久手の魅力を発信できる場
- ・愛知県の田舎の玄関口として、田舎体験ができるような機能
- ・年齢問わず集まれる場
- ・何か体験したい、学びたい人同士が、活動を共有・シェアできる場
- ・市民、市外の人との交流の場、学生・市民団体・行政などの交流拠点
- ・地元プロジェクトの継続発表の場
- ・「はじめの一步！」・・・子育てママと地域の先輩主婦が「あそび」を通して交流できる場
- ・学生が市民向けの講座などを行うような場
- ・中身が何もない場。それを市民が考え、みんなで手作りする
- ・人がいつも集まっている場
- ・それぞれの世代が、普段できないこと、やりたいと思っていることができる場
※小・中・高校がまちづくりを企画、高齢者がやりたいことを実現させる
- ・展示空間として活用
- ・交流と情報発信の場
- ・長久手の中心地、愛知の情報発信地、日本のモデル地区
- ・沿線大学のランチに
- ・オープンテラスがついた会議室、誰でも入りやすい施設
- ・ラウンジのような場所、ゆっくり、のんびり会話ができるように

②リリモテラス公益施設が誕生したら、どんな使い方をしたいと考えますか

- ・市民に対する行政サービス、転入者へのオリエンテーション
- ・今日のPOTLUCKスクールのような学びの場
- ・マルシェをやりたい
- ・企業家が集まるシェアオフィス、多世代が学びあえる場
- ・ミーティングする、人に会いに行く
- ・子育て世代が求める空間づくり（子どもと一緒に自由に、のんびり過ごせる）
- ・市外から来た友人に長久手を紹介できる場としたい

参加者アンケート

- ・公園でライブやみんなで絵を描く
- ・最初はイベントを多くし、人数を集めたい
- ・ラウンジのような場所、ゆっくり、のんびり会話ができるように
- ・（円頓寺でやっていた）ラジオ体操は面白いと思った
- ・長久手の魅力が発信できる催事
- ・まちづくりの社会実験の場
- ・花壇をみんなで作り、可愛がる
- ・朝活・・・テーマを決めて話し合いの場をつくる、その後モーニングを食べれる場所をつくる
- ・活動の発表、多様な人たちの交流の場にしたい
- ・つながりがある場にしたい
- ・仕事終わりに立ち寄り、同じ楽しみや共感できる人と話し合いがしたい
- ・芸術発信の場として使いたい
- ・交通の拠点になるといい（市内はもちろん、市外とつながるもの）

③その他、シンポジウム内容も含めた意見

- ・今回のような開かれたシンポジウムで勉強会や意見交換を通じて施設の方向性を決めるのは素晴らしい。今後も時間をかけ、合意形成をもとに進めてほしい
- ・古戦場公園との一体感を持ったイベントを開催してほしい
- ・この広場（仮称・リテラ）に、いつも多く人が集まるにぎわいポイントにしてほしい
- ・学生の活動を応援してくれる今のまちの姿勢を続けてほしい
- ・収益活動を禁止しないでほしい プロデューサー、ディレクターを置いてほしい
- ・イオンとは真逆の雰囲気、アナログ、めんどくさい空間、自分で楽しめるような仕組み
- ・大学、アーティストと一緒に歴史イメージのある演出を（旗、甲冑、行燈など）
- ・イオン、リニモテラス、古戦場公園を、統一感のある緑化でつないでほしい
- ・若い人の意見をもっと聞きたかった
- ・若い人が行っている社会的実験の事例を聞いたのがよかった。リニモテラス活性化の原動力になるといいと思った
- ・木のおもちゃルームを作ってくほしい
- ・事例を聞くだけでなく、もう少し市民の意見を聞いてほしかった
- ・予想以上に多くの人が集まった。こういう機会が途切れないよう月1回くらい作ってほしい
- ・歴史のまちにふさわしいモニュメントをつくってほしい
- ・再生や再発見する取組と、それを推進する知恵が集まる場が必要と思う
- ・小中高生の意見や子育て世代のお母さんの声を聴く機会をつくってほしい
- ・市民の意見を継続的に聞き、市民を巻き込んで運営をしていってほしい
- ・事例を見に行く機会をつくってほしい
- ・トヨタ博物館など、近隣施設を含めた連携

トークセッションのまとめ

リリモテラス公益施設の基本計画につながる意見の抽出

① パネラーに対する質問

■リリモテラス公益施設を、市民主体で作り上げていくうえで、より具体的な質問があった
パネラー個々への質問のほか、「まちづくりは少数の人が引っ張るべきか、やはり多くの人の合意が必要か」や「場の運営には調整役は必要か」など



強い意思を持った人が、多くの人を巻き込みながら、場づくりを行っている事例であった。時間をかけて粘り強く前に進めていくことの重要性を参加者が実感した

② 参加者アンケートから

■リリモテラス公益施設は、市民にとってどんな場になればよいと思うかという問いに対し
活動・発信の場、にぎわいの場を筆頭に、やすらぎの場、学びの場、遊びの場などへの期待は高い。
具体的には、世代の違う人たちが交流することができる場に対する意見は多い。その他、何かをやりたい人のきっかけになる場であったり、長久手の魅力や市のイベントなどの情報発信などという意見もあった。



いつもは交流しない人同士が出会える場、市民同士の触れ合いの場によって、にぎわいや安らぎなどを感じたいという意見とともに、活動・情報発信の拠点としての期待は高い

■リリモテラス公益施設が誕生したら、どんな使い方をしたいかという問いに対し
マルシェや朝活、ポットラックスクールのような勉強会、クリエイティブな活動の発信など、豊かな市民生活を後押ししてくれる使い方、使われ方や、自然を取り入れた景観は施設備品などの必要性など、さまざまな意見があった。



隣接する商業施設とは違う時間、価値観が流れるような場づくりへの期待感が高い

4. 関係団体ヒアリング・アンケート

＜アンケート回答者内訳＞

所属団体	数
S C C C	5
長久手市国際交流協会	5
ういういの会	4
Do Nabe net in あいち	4
リニモ沿線合同大学祭実行委員会	2
あったかい手 整膚	2
長久手おやこ劇場	1
炭焼き紅連隊	1
長久手郷土史研究会 ブログ委員会	1

＜回答者属性＞

職業

回答項目	計	
会社員	3	7.0%
公務員	0	0.0%
学生	13	30.2%
主婦	15	34.9%
その他	12	27.9%
計	43	100.0%

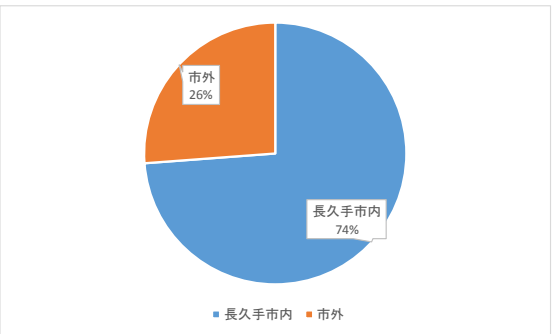
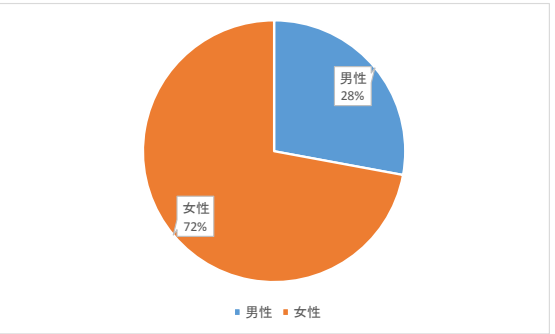
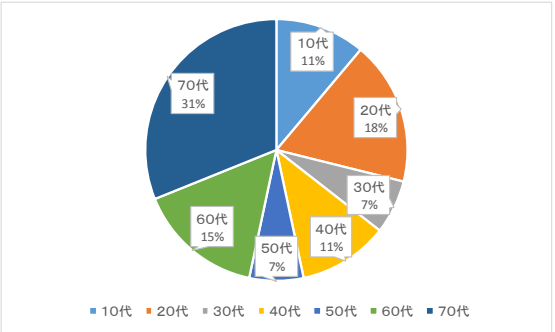
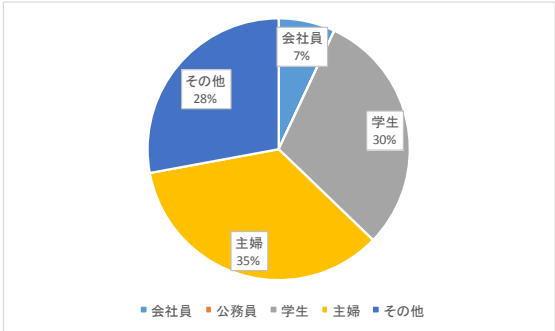
その他
退職者(3)・パート(2)・自営業(2)・無職(2)・
臨時職員(1)

年齢	計	
10代	5	11.1%
20代	8	17.8%
30代	3	6.7%
40代	5	11.1%
50代	3	6.7%
60代	7	15.6%
70代	14	31.1%
80歳以上	0	0.0%
計	45	100.0%

性別

性別	計	
男性	12	27.9%
女性	31	72.1%
計	43	100.0%

お住まい	計	
長久手市内	31	73.8%
市外	11	26.2%
計	42	100.0%



4. 関係団体ヒアリング・アンケート

1. 皆さんの団体の活動内容と、主な活動拠点(場所・施設)について教えてください。

「長久手市国際交流協会」事務局は市役所たつせがある課内。活動内容は、市民に国際的な事業を提供することによって、国際感覚・視点開発の啓発。活動場所は市内公的施設各所。
「長久手市国際交流協会」英語絵本の読み聞かせ(北小学校):日本語教室(西庁舎・西小学校共生ステーション):自主健康体操(まちづくりセンター):筋トレ(福祉の家)
「Do Nabe net in あいち」2、3ヶ月に一度、共生ステージで食事会を開催
「リニモ沿線合同大学祭実行委員会」地域のつながりをつくるために沿線11大学の学生が集まって活動している・普段の打ち合わせはまちづくりセンター、イベントの際はモリコロパーク、リニモ各駅を利用中
「SCCC」学生と地域住民が共に考え、共に学び、共に活動することができる場、ふるさととなるきっかけ支援を考えるチームです・まちづくりセンターにて会議を行い、各大学のメンバーで情報交換
「長久手郷土史研究会 ブログ委員会」
「あったかい手 整膚」皮膚を引っ張る健康法・まちづくりセンター 1回/月・福祉施設 随時 高齢者 子ども
「みんなではなそう!ながくてクラス」木曜日本語教室
「長久手おやこ劇場」生の舞台美術を観ながら、子どもたちの豊かな感性を育んでいこうという会・一緒に遊んだり、語り合ったり、心動く体験をたくさん重ねて豊かなこども時代を過ごしてほしい・文化の家、まちづくりセンター(事務所)、福祉の家などで部代を観て、遊びは各サークルで思うように遊びます
「炭焼き紅連隊」竹やぶの間伐と切った竹の有効活用として竹炭に加工する活動・熊張、福井地区に拠点
「ういういの会」 「キッズボラサークルあそびすと」小学生サークル 「子育て応援はっぴい」子育て力、子育て世代支援活動 「多世代交流サロン」地域の異なる世代間交流
「NFL(ながくてファシリテーション協会)」拠点:まちづくりセンター 時間:夜間
暮らしやすいまちづくりを目指し、市民活動団体をつなぐ「ながくてつながりマップ」の発行・「サロンういうい」「ファシリテーション講座」「マップ掲載団体の交流会」等の開催・まちセンカフェの企画運営を担っている・まちづくりセンター、西小校区共生ステーション、市西庁舎等・月曜日の午前・午後、土曜日の午後

2. 貴団体の活動を、さらに活性化していくために必要なファクター(要素)とは何だと思いますか。

多くの人の集まる場所で、国際感覚のあるブースなど展開し「国際交流協会」をもっと市民に認知させたい。
学習対象者への周知
ボランティアの確保・健康の維持
広報の場(多くの人にこの活動を知ってほしい):8名
さまざまな世代同士が集まる場:2名

4. 関係団体ヒアリング・アンケート

他大学の学生さんと繋がりたい・地域の活動的な団体さんと繋がりたい→いずれコラボできたり・お食事会を開いているので、多く作りすぎてしまったものなど野菜などを提供してくれる農家さんと繋がりたい
高齢者を引きつける？呼び寄せる
人数が年々減少しているので、メンバーを増やすことが必要・リニ祭の知名度を知ってもらうためにも他団体との交流、ボランティアに積極的な参加が必要
情報が一括している場となること・長久手市内で学び活動する人々と出会える場がほしい・ミーティングができる場があること・人と人をつなげてくれる人・自分のやりたいことができる場(ミニ農園、ステージ、活動発表、料理教室)があること
他団体のことを知ること・地域の方のことを知ること・つながりが広がっていくことができる場や仕掛けが必要
近隣の小中高大生混じって活動して世代間交流を図れる場がほしい
沢山の人の前で表現できる場が欲しい:2名
人員を増やしたい:7名
中高生が勉強のために夜10時まで利用できるため文化の家を利用してます・自習室のような場所がないでしょうか。
運動場所の確保
(時間の)自由な場所:4名
気楽な時を過ごし有意義な場所に
活動日の増加開催・木曜以外の曜日、夜間クラスの開催
子どもたちと共に育ち合う、生き合う仲間がたくさんいると子どもを取り巻く環境が変わる・仲間がたくさん増えること、子どもを見る大人のまなざしが変わると、子どもも大人も生きやすいと感じています
関わっているどの団体も情報発信力不足・イベント時など、コラボしてくれる団体個人の情報がほしい
皆各々で活動はしているが、つながり感、絆が日進市のようにバラバラになりつつある・自分の団体も大事だが団体同士がやはり交流会で仲を深めて協力して盛り上げる
行政の新たな考え、取り組み・未来思考で考え研究し活動する仲間の数
同志の集まり、横通しを各団体で行い、出来れば同じ活動の色合いのものはひとつにして頑張りたい
活動団体間の情報ネットワークを作る・行政やNPO団体との協働を進める

4. 関係団体ヒアリング・アンケート

3. 「リリモテラス」について、新たなまちの顔となる公益施設として、どんな機能があったらよいと思いますか。4つの機能にとらわれず、自由にお答えください。

インフォメーションコーナー(相談できる場所)・長久手めぐり観光相談・国際交流、ホームステイ・ビジット相談所・外国人のための相談所・子育て相談・生活相談・ボランティア相談
イベントが行われていたら、いいと思います。屋台などが充実していてベンチで休めたり、おいしいものを食べれたらなおベスト
公共施設が閉館している月曜日や休日でも勉強することができる施設がほしい。気軽にトランポリンとバドミントンができる場所がほしい
土・日・祝は交流イベント。平日は体験、物販ブースコーナー。簡易ステージ、テントなどほしい。国際交流フェスタ。文化協会発表会、作品展示
公共機関の業務を、現行の住民票の発行など一部の代行だけでなく、すべての職務代行が限りなく広くできる業務のデパート化を図ってほしい。高齢者個人個人の条件に沿ったサービスが行き届く環境の整備を図ってほしい。
100人くらい入れる会議室(食事会ができる部屋)・「1時間〇〇円」で使える体育館
公園で遊んでいる子と一緒にイベントを行いたい
幅広い年代の方が何かに取り組めるもの、イベント
いろいろな世代の人が集まって、交流できる施設・学生同士の交流ができる・イベントがあり体を動かせる・小さいものでもいいが、動物と触れ合えたら・・・
子どもからお年寄りまでみんなが気軽に来れる場所・大学生などボランティア活動をしている人が使える施設・他大学、他ボランティアとの交流
自然が感じられる環境で、隣にある古戦場公園がよくみられるように、できたら歩道橋でつないでほしい
ジブリの映画、ポニョの世界のように、お年寄りと子どもと一緒に過ごせる場所をつくりたい・あらゆる世代が集えるコミュニティスペース
イオンで遊ぶ(人に楽しませてもらいたい人)⇔本当の長久手の楽しみ方を知っている人と出会える場所(自分から楽しんでいる人)
学生の活動を発表するスペースがほしい(プロジェクターやモニター、スクリーンなど)・一般の人もくつろげるようなカフェテリアのようなスペース(コーヒーマーカーや自動販売機)
会議ができるハコモノはすでにあるので、イベント開催に特化したものになるとよい・また活動者同士が共に準備できるようワーキングスペースのようなオープンな雰囲気になるといいなあ
Wifi・コワーキングスペース・留学生と国際交流する場所・テント(屋外イベント)倉庫・貸し出し用パソコン
リリモテラス拠点に長久手市内に行くことができること・宿泊できる・音楽がある施設・他団体の活動を応援できる機能・朝活できる・飲食できる施設・ものをつくる(育てる)ことができる機能
どんな人でも交流できて、地域の情報共有ができるような機能があるといい:2名
誰でも立ち寄れるご近所さん機能
ゆっくり時間を過ごすことができる施設が欲しい、飲食店など・夢に向かって進むことができる施設

4. 関係団体ヒアリング・アンケート

観光イベント(小牧・長久手の戦いのPR)
赤ちゃんから高齢者まで健康(運動・健康法)について触れられる(行える)場所となてほしい「健康長久手」
中高生が学習やスポーツ活動できるようなものを希望します
運動も含め多目的で使えるスペース・子どもから高齢者まで一緒に使える場所
気軽に何かチャレンジできる施設
多目的ホール
イベントが行われている施設
いろいろな施設
機能低下を遅らせて1日でも多く明るい毎日に活かせるような施設を希望
幼児からシニアまで幅広く文化教室
何を目的として4つの機能を取り上げたのですか？他の市との差別化強化のため？企業誘致のため？リニモ活性化
「リニモテラス」は商業施設のイメージが強いので、その場所に子育て支援の場となると、ちょっと違うのかな？と感じます・リニモテラスには、きっと長久手以外のたくさんの人が来て集まるのだと思うので、交流できる場(フリースペース)がたくさんあるほうが良いと考えます・長久手の子育て支援はもっと地に足つけたものであるべきだと考えます
長久手の歴史を発信する場・国際姉妹都市(ワータールロー)や国内連携市町(南木曾)などとの交流や宣伝を担う場
長久手のことを知ることができる・対面、端末両方の情報提供
テラス、新たなまちとかかけてる中で星が丘テラスの面影もない・イオンの中にしか衣・食・住がないのは、イオンから出て回るか？イオン寄りついでに市役所用事を、は賛成
リニモ駅や商業施設があるので若い親子が集いあう場所がほしい・母子や孫と祖父母などがゆっくり過ごせる空間と軽食を取れる場所もほしい
すでにある施設も充分活用されていないので、新たにリニモテラスを作ることには反対である
長久手市内はもちろん近郊の情報を大量に集めて発信する
フューチャーセンター機能

4. 関係団体ヒアリング・アンケート

4. 皆さんは、「リリモテラス公益施設」が誕生したら、どんな使い方をしたいと考えますか。室内はもちろん、隣接する公園も含めてお考えください。

人々が集える空間、雨天時にも楽しめる空間。こども達があそべる空間(室内砂場、ロッククライミングなど)大人が軽い運動のできる場所(おとなの公園、遊具をいれる)
公園にはロッククライミングが出来たり、スケートボードができるなど他にはなかなかない施設があったら楽しいと思います。
種々団体(国際交流協会、文化協会、補助団体、体育協会。。。)+自治会+大学+サークル団体+行政+NPO法人+などなどの交流会や交流しやすい仕かけの施設。主催は市内、参加は市外も可。案内、相談、紹介コーナーの充実。(職員、代表者など常駐)
体の不自由な人も楽しめる施設・リハビリ、美容、健康、娯楽の融合施設
ぜひ屋上をつくってほしいです。緑があってテーブル、いすがあって隠れ場みたいな場所が出来たらうれしいです。
いろんな人と関りたい・ボランティアをしたい・体を動かしたい・私たちの団体の活動を行いたい(調理できる空間が必要、出張という形もあり)
公園でのピクニック、日向ぼっことか・DoNabeでお食事会した後に子どもたちと公園で遊ぶ・お祭りしたい
行けば何か楽しいことができる場所・おいしいランチ、カフェなどがあって1日いてもあきないところにしてほしい
他地域では考えられないような、斬新で面白いイベントを企画してたのしみたい・住みよい街もいいけれど、「なんかわからないけどいろいろオモシロイことしてる人がいる街」というふうにしていきたい
井戸端会議、大きな家のみが出来る場所・外で焚き火しながら昔ながらの楽しみ方を出来る場所・使い方ではなく、つくり方を見直してほしい
「リリモテラス」を学生が自由に、大学間のつながりを密にして自己実現できる場として、また活動を支援していける場として利用できればいいと思っている
定期的に人が集まれるようなイベントの開催・公園のステージがあるので、活動の発表の場(音楽やダンスなど)として使いたい・コワーキングスペースができれば、他の団体と意見交換しながら活動したい
講座年配向けが多い、学生向けが欲しい(料理にチャレンジ、ハンドメイドアクセサリー)
学校終わりにミーティングや、人に会いに行くことが出来る様に使いたい(まちあわせ)・情報を集めに行く・イベントに参加する
地域の方の憩いの場になるといい・皆が集まって楽しみながら交流できたら
人が集まれば通りかかった人も気になって集まると聞いたことがある・それを活用してリリモテラスに関するスタッフや近くのお店の方近隣住民の方とイベントを行ってみんなでワイワイできる使い方があると思う
歌の練習ができる防音室が欲しい
他大学の学生さんに関っていきたい
会議・ミニ発表会の場
サークル活動や運動教室

4. 関係団体ヒアリング・アンケート

室内の広場
特に考えはないが、使用したい
見てないのでわかりません:2名
長久手市民としてうれしく思えるように期待します(健康機器・野外設置用)
夜間自由にクラスが開催できる会議室があればよい
たくさんの人が集う場・いろんな情報が発信できる場・人と人が出会う場
自団体の情報をしっかり広めたい・用がなくても、ちょっと立ち寄りたい
施設ばかり建てて税金使いだけになっているので「ここに建てます」の前に市民の話を聞くべし・不便(交通量、信号)の場所の市役所を変える
子どもといっしょに公園や室内でゆっくりと遊ぶ
情報を求めて訪れる
定期的なダイアログの場・※無理してもリニモテラスを作る必要を感じません
リニモテラスぐらいは民主導ではなく、行政提案があってもいいと思う・観光主体で知的拠点的なものが長久手にあってほしい・リニモテラスの場所に市役所を移転し、テラスを現在の市役所にもってくる
「サロンういうい」の開催・まちづくりや環境、人材育成等の講座の開催・市民活動団体交流会の定期開催

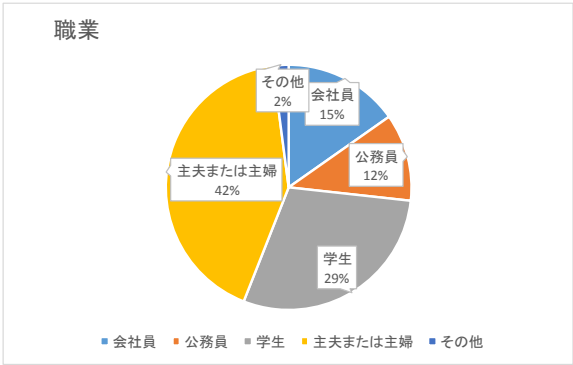
5. 市民アンケート

【ポスター・チラシアンケート】

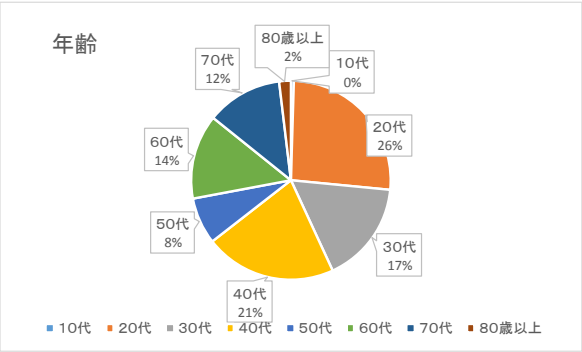
＜回答者属性＞

回答項目	計	
会社員	37	15.2%
公務員	28	11.5%
学生	71	29.2%
主夫または主婦	102	42.0%
その他	5	2.1%
計	243	100.0%

その他
失業中/自営業/退職者/無職/

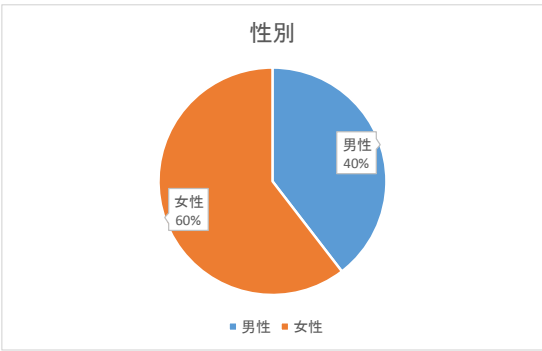


年齢	計	
10代	1	0.5%
20代	55	26.1%
30代	35	16.6%
40代	45	21.3%
50代	16	7.6%
60代	29	13.7%
70代	26	12.3%
80歳以上	4	1.9%
計	211	100.0%

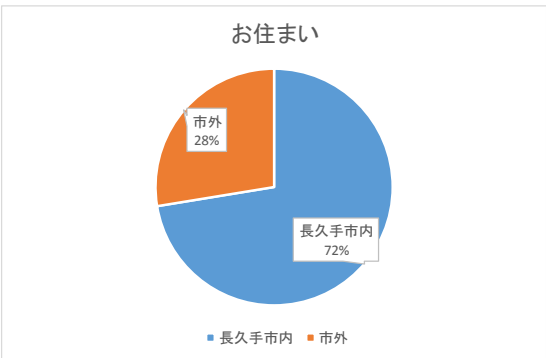


性別

性別	計	
男性	93	39.6%
女性	142	60.4%
計	235	100.0%



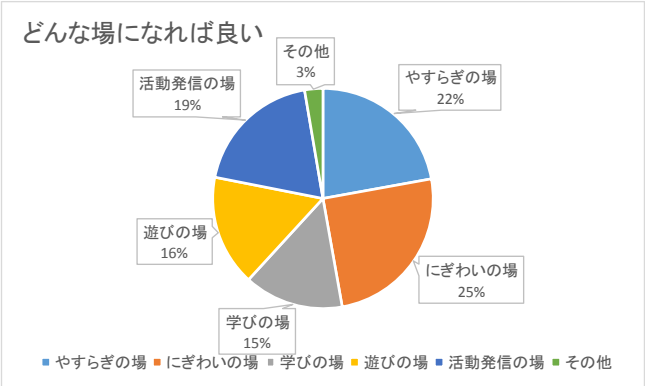
お住まい	計	
長久手市内	168	72.4%
市外	64	27.6%
計	232	100.0%



5. 市民アンケート

1. 古戦場駅前という立地のリニモテラス公益施設は、市民にとってどんな場になれば良いと思いますか。
(複数選択可)

回答項目	計	
やすらぎの場	91	22.1%
にぎわいの場	103	25.1%
学びの場	60	14.6%
遊びの場	67	16.3%
活動発信の場	79	19.2%
その他	11	2.7%
計	411	100.0%



その他：
母親サポート・高齢者サポート/災害ステーション/
集いの場 2名/賑やかで活動的な場/魅力あるまち
の顔づくりと情報発信の場/車社会を脱皮した安心安全な町 車でなく人が集まる/のんびり日向ぼっこができそう
な感じ/市民同士をつなぐ場所/長久手市と日進市の地域交流の場/定期的に訪れる意味がある場所/公共交通
の中継地点での止まり木の様な場所/

具体的なイメージを教えてください(自由記載)

子供から老人までが気軽にすごせるボランティアカフェを作り、すべての人がのんびり過ごせる場を希望
市のいつも、なんでも発信場所として
古戦場公園に足が運べる、ガイド窓口。 長久手の史跡めぐりができる総合案内発信の場 ショッピング+長久手の町再発見の場
気軽に立ち寄れる場： 3名
老人も楽しめる場所 ※古い音楽が流れお茶する
50人程合同練習の出来る場
体を動かせる場
お稽古の場：2名 ・広い部屋が欲しい：2名
市民優先のように稽古もでき会議もできる
踊りのおけいこできる所・市民が気軽に使える所
毎週お稽古場をとるのに大変ですので
おどりの練習ができるとよい：2名
おけいこ場 なるべく大きな：2名
鏡のついたおけいこができる部屋・お茶や団らんのできる場所
行き方もわかりにくい場所で不便です
若者のクリエイティビティが刺激される場・何かが化学反応するワクワクする場
なにか情報を得られる場・活動の発信ができる場
幅広い年齢の人が立ち寄りたい、行きたいと思うような場
市内の人からみれば、気軽に集まり、長久手の事について研究する場など 市外の人からみれば、長久手に来たらまず寄ってみたい場(観光名所)
イオンに来る若い母親たちのサポート。軽症を負った子供たちの応急手当。手荷物預かり所。高齢者の休憩所。
災害の疑似体験・火おこしからの食事体験・野宿体験・仮説トイレ設置体験
市内の情報、活動ができる場に・広報だけでなく国内外の交流を増やし市の活性化

5. 市民アンケート

静かで落ち着ける場が良いと思います
誰もが興味、関心を持てる場（年代、性別を問わず）
バルコニーやベランダのあるテラス
何かやれることを求めに行って発見できたり、ふらっと立ち寄ったら思わぬ何かが発見できる場であると、良いと思います。
夜でも明るく安全な場所
イオンが近くにあることから、様々な世代の人が行き交う場所になり得ると思います。なので、年齢問わず必要、かつ行きやすい空間、場を作る必要があるのではないのでしょうか。
おしゃれで気品ある高級感のあるスペース。高級ホテルや迎賓館の雰囲気。
子連れでも行きやすい
ゆったりと入れるお湯
モリコロパークの児童センターと市図書館を合体させたような施設
主としてアマチュアの音楽発表
市役所の出先機関があり、各種手続きや観光案内等の長久手のアピール拠点となる
まだ具体的なイメージは出来ていません。
いろいろな講座をひらいてみんなで学ぶことができる場所。市に援助してもらい安い授業料で英会話や料理などが学べると思う。そしてお茶をたっておしゃべりをしたりできる場所。
交通の利便性が高く、商業施設など人が集まる環境が整っている。 あとは、この場をどう活用し、実のあるリニモテラスにするかが問題である。広く意見を集めることが肝要と考えます。
雨風がしのげて、のんびりできる
市民が集まりやすく、広々とした明るい場所にして欲しい。
なし
歴史資料館、図書館の要素。市政などについて意見交換できる場。
お弁当を食べたりしゃべったりパソコンをしたり自由にくつろげる場所
市民が気軽に週末を家族や一人でも過ごせる場
イオンが完成し、今後はその周辺は「にぎわいの場」となるでしょう。家族などが公園と同じような感覚で利用でき楽しめる施設であるとともに、現在のござらっせ（福祉の家）のような「やすらぎの場」という雰囲気も感じられる施設になると、利用する市民にとって価値のあるものになると思う。
ゆったりした時間を過ごせるような場所になるといいと思う。
みんなが集まるような。こどもが楽しく安心して遊べるような。
子供が安全に遊べる場所
子供の遊び場や、季節や国際的なイベント行事などを体験できる場
毎週末何かしらのイベントを企画し、どの年代の人も参加出来るような企画を催す
誰もが穏やかな気持ちになれる場所。
他都市からの交流を含めたにぎわいの場が良い
若い世代・子育て世代が多い街なので、明るい雰囲気、小さい子たちも遊びやすい場所を作ってほしい。
刈谷ハイウェイオアシスのような、子供も大人も楽しめる場所がいい

5. 市民アンケート

市民にとって便利な大きな施設
長久手市民のみならず、長久手古戦場という歴史ある所なのでこれらをもっと大々的に市外から来られる人たちにも活用できるような場所にしたらどうか。
子どもたちには遊びの場、若い世代にはにぎわいの場、年配者にはやすらぎの場として、様々な年齢層の方が訪れる施設になればと思う。子供の遊び場(遊具)設置。ショッピングや大人が楽しめる遊び(カラオケやボーリング、映画館など)の設置。バリアフリーで季節感を楽しめる散歩コースなど。
いろんな年齢層の方が足を運べるよう、遊びや癒やしを取り入れてほしい。
子供の明るい遊び場
市民掲示板の設置
どの世代も集まりたくなるような場所。地元愛知、長久手の食材を活かしたクッキングスクール、毎週開かれるマルシェ(パリやニューヨークのグリーンマーケットのような)wifi完備のコミュニケーションルーム、学びの場として階段式の講義室で開かれるセミナー、住民同士が気軽に情報交換、譲り合い、物々交換できるような掲示板。
古戦場前という歴史を伝えられ、皆が使い勝手のいい集えるところ。
公園が近くにあるので、ゆっくりできるように
どんな人でも気軽に立ち寄れて、それに伴う必要なものが揃っている。(子供のおむつ替えや授乳室、身障者でも使い易いトイレなど、何もなくても過ごせる場所がある) どんな状況下(晴れでも雨でも)でも受け入れることが可能な場
古戦場イメージによる癒し空間としての「やすらぎ」の場
憩いの場になればと思う
長久手おすすめ店のスイーツやパン、農産物を購入出来るスポット作りをしてはどうでしょうか。各々の店は点在しているので、ここに来ればその全てを網羅できるという形にすると良いと思います。個人的には写真教室や料理教室といった講座も開いて欲しいと思うので、そういったスペースもあればなおうれしいです。
木、椅子が多い場。
・長久手市内で活動するボランティア団体の発表の場 ・モノづくりワークショップを開催する場
すいません、イメージが付きません
市民掲示板の設置
現在の古戦場はいささか静かすぎる気がします。もっと、沢山の人が集う場所になればと思っています。
住民が普段集まる機会がないので、顔合わせの機会が増えたらいいと思う。
長久手らしい緑を取り入れた癒しの空間があるといいなと思います。
長久手市民のための、長久手内外のイベント情報だったりグループの活動内容等を知れる場所となれば。そして長久手市外の方に、長久手に対する理解と好感度をあげてゆく。
「交流施設」ということであれば、私は子供ができてから、新たに知り合った人は仕事以外はほとんど子供を介して出会った人ばかりであることを考えると、子供の遊べる施設に大人のくつろげる空間の併設しかないように思える。子育て時期を終えた方は、地域の人がゆったり過ごせるスペースがあるといいと思う。
老若男女関係なく、みんなが集まりコミュニケーションの取れる場所
具体的な規模？

5. 市民アンケート

幅広い世代がお互いに刺激を受ける場所
思い思いにくつろげる場
スポーツのパブリックビューイング
人が多く集まる場所だから、賑やかであってほしい。
子育て世代やシニア世代などの交流の場。
ピクニック気分で集まり、ワイワイ騒げる場所にしてほしい。
住みたいまち、住みやすいまち、にぎわいのまちづくり、そのことを分かち合い成長できる場であり市民の誰もが足を向けたい場所、自然と行きたくなる場であり、まちの情報がみえる場。
雑誌などが読める休憩所があったり、カフェがあるといい。
この地へ来れば皆に合え、明るく、楽しく、そして有意義に過ごすことが出来る場所にしてほしい。
平日の昼間に小さな子供を連れたママさん達が集まるようなイメージ (刈谷ハイウェイオアシスの遊具広場のような)
大人には安らぎと学びを、子どもには遊びと学びを得られる場であると良いと思います。 学びというのは各種講座などを、スポッ的に気軽に受けられると良いと思います。 子どもが自由に遊べる場所と、大人は年輩の方でもくつろいで過ごせる場所が 共存できる空間だと良いと思います。
寒い日も暑い日も、行かれる図書館みたいなところ
遊歩道、車の一方通行、迂回ルート、歩道橋
新しい情報発信所
のんびりできる芝生広場。 椅子があり日陰になるような所がありお弁当などが食べられる広場。
小さな子供をつれて気軽に行けるような場所
子連れで遊べるような広場(公園)があつてくつろげるイメージ。
文化施設があつたらいいと思います。市営のカルチャーセンターのようなもの。
お店が立ち並び、休憩するテーブルと椅子がある。
高齢社会化の進む中健康増進につながるようなストレッチとか太極拳・ダンス等
気軽に立ち寄れる場や市役所機能の一部補完
市内で必要とされるボランティアの募集をしたり、大学生などが、小、中学生の勉強をボランティアで教える場として、アクセスもいいので近隣大学の協力を得てできたらすばらしいと思います。
オシャレな図書館。甲冑や家紋のステンドグラスとかがあると素敵。カフェも併設してほしい。
市民がやりたいことを楽しくできて、つながりのできる場
親子が安心して遊べる場(三好ヶ丘のカリヨンハウス内、子育てふれあい広場のような)
緑がたくさんある、芝生が広がる広場が良い。気軽にランチがとれたり、寝そべったりできるニューヨークのセントラルパークのイメージ
子どもがたくさん遊べるところ。

5. 市民アンケート

新住民がまちに接点を持つ拠点

- ・まちとの接点＝まちにどんな人がどんな思いでどんな活動をしているか分かる人の設置
- ・相談を待つのではなく、提案型で繋ぐことができるコーディネーターの設置

モリコロパークに次ぐ、「イベント・フェス等が可能な施設(スペース)」

官民の枠を越えて、気軽に市民が交流できるような施設。

創造と学びの場

リニモの中心駅であり、長久手市の顔となるような発進力のある市内外の住民のプラットホームとなるように。市民参加を表に出しすぎると交流意欲が狭まれるので、共存力のある場所にしてもらいたい。

「リニモを核にした街づくり」に向けた市民同士あるいは団体同士の交流のための拠点

気軽に立ち寄れる場

子育て世代も大事であるが、子育てが終わった中高年の世代も楽しめるような場。長久手は公園も豊富でこれ以上 遊具などをそろえて子供を対象とした場づくりはしなくて良いと思う。

日向ぼっこして、ぼーっとできる場所。「何かをしなければ…」では無く、ゆったりとできる場所。

スポーツクラブなどの集会、パーティができる場

住みよい町、全国2位のシンボル。

週末に子供や若者やお年寄りなどさまざまな人達が楽しめるイベントが開催される場所

長久手の過去と現在が示され、それらを学ぶことができ、未来(モリコロパークの方)へつながる場所

気軽にスポーツレクリエーションが楽しめる場

誰もが立ち寄れる場。

地域の野菜などを扱う青空市場などあったらいいなと思います

まちの多様な情報を引き出せる場、旬の情報がわかる場、情報や地域案内のコンシェルジュ的な人がいる場

気軽に立ち寄り、友達とおしゃべりできる場

情報発信の場として、多くの人が集まれる。

図書館

子どもたちが安全に安心して遊べる場、それと共に学べる場で、大人にとってはやすらぎの場となれば良いと思います。

長久手市民が市内での情報を得られる場所

公共交通の要所、病院、習い事、食料や日用品の買い物、フリマなどができる場所

静かな公園はほかにもある。イベント、公演、コンサート等が行われるにぎやかな場にしてほしい

バスを待つ間に立ち寄り、一息つく事ができる場所

寄り道で少し子供が遊べる場所

気軽に立ち寄れる場

学生の勉強の場

高齢者・子どもが立ち寄れる場

通学の合間に立ち寄れる場

まったりとコーヒーを飲みながらwifi接続

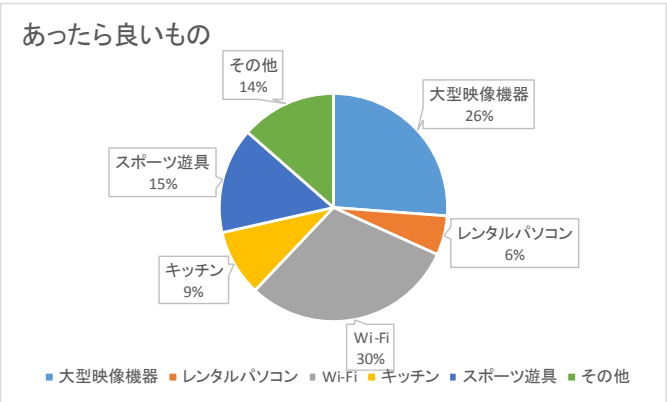
ショッピングや食べ歩きができるとうい

5. 市民アンケート

気兼ねなく立ち寄れる場
静かな場
24時間施設がほしい
自習勉強ができる場
気軽に立ち寄れる場
安心できる場
自然があふれる中で交流ができる場
ゆっくりできるところ
学生のワークショップなど市民同士の触れ合いの場や学びの場になればよいと考えます
落ち着ける
子育て世代の人、子ども達が安心して過ごせる場
落ちつく場、安心の場
ゆったり交流ができる場、公園のような…
行きやすい、行きたくなる場
どの年代の人でも気軽に、集中して勉強ができる場、家族が休日にできる場
勉強室がある、託児ができるところ、カフェがある
温泉とか

2. リニモテラス公益施設にあったら良いなと思うものを教えてください(複数回答可)

回答項目	計	
大型映像機器	89	26.2%
レンタルパソコン	19	5.6%
Wi-Fi	103	30.3%
キッチン	32	9.4%
スポーツ遊具	51	15.0%
その他	46	13.5%
計	340	100.0%



その他

大きな鏡:3名/舞台設備:2名/小さい部屋より広い施設/コーヒースタンド・図書コーナー:3名/子供向け複合遊具/発電機/音響施設/何にでも使える多目的室/おしゃれなベンチや腰掛/AEDや災害時の備蓄/足湯/雑誌/大人と子供が長時間過ごせる設備/動物(うさぎ)触れ合いコーナー/自転車の貸出、無料でも、有料でも:2名/歴史を伝えられるもの/料理教室やパン教室、お菓子教室など/案内所(長久手市内の観光 Nバス、ぐるりんバス、リニモ、名鉄バス)/机、椅子、自由に書き込みできるホワイトボードのようなもの/利便性/アスレチック/うるおいのある緑豊かな公園/水遊び場/歩行者の駅/子どもが遊べる室内遊具場/授乳、おむつ替えスペース/気軽に参加のできるコミニティーセンターの様な施設/広い室内休憩所/子育て支援センター/単なる貸しスペースにならないソフトの充実/ライブ演奏のできる舞台と観客席(固定の施設でなくてもよい)/ドローン/日よけの木々とベンチ/ハコモノは必要ない/幼児から中学生くらいの子供が遊べる大型遊具/ジョギング用シャワー室・市内の名所、施設紹介/雨風をしのぐことができながら、季節を感じられる大きな空間/バス待ちでも雨風をしのげる待合室の様な空間/24h自習室/Café、ラーメン屋/

5. 市民アンケート

3. その他、リニモテラス公益施設にご意見があればお書きください

子供は自由に遊び、学生は学び、老人たちはそれを見守る。やさしい思いの人たちが集い、お互いに助け合い笑顔あふれる場にしてほしい。ボランティアで協力したい。

古戦場公園の東屋から東に水田が広がり遠くに猿投山をのぞむ風景がかつて長久手の最高のビューポイントだった。今その前に大きな建物が現れその眺めが失われてしまった。せめてこの広場（仮称リテラ）をいつも多くの人でにぎわうポイントに創造してほしい。

古戦場が隣接ですので、古戦場公園とリニモテラスが密接に結びついている場として一体感をもったイベントを開催してほしい。

借りやすい

夜遅くまで開いている

長時間利用可・雨が降っても絶対できる様

鏡張りの部屋

365日AM9時～PM11時まで開いていて欲しい・休館日なしで

市民を優先してほしい

大きい鏡がほしい

広い部屋の施設がないから

友達等とお茶のみできる場所・気軽に参加できる場所にしてほしい

新しい施設もいいけど交流プラザにもう1階作り、3階を広いけいこ場にしてほしい

大学生がコミュニティビジネスを起業できるような場になるような仕かけがほしい

オープンな場所・いろんな人がそこに集まってワイワイできる場所

市民が自由に使えるオープンスペースがたくさんあるといいと思う

名産の生まれる場(皆でワイワイ話し合って・・・)

世界に向けた情報発信の拠点

小林元先生の本をズラリと置いて、本市の地名の由来、郷土史を紹介する。

カギをかけないオープンスペースがあること

どの施設もそうですけど、いつも他市町民が利用し私たちが使うことができないので、市民優先にしてほしい

2020年東京オリンピックもありますので、長久手市でも今以上に外国の方との交流ができるようになれば・産・官・公交流の場に

長い時間開いていてほしい 朝～夜まで毎日

駐車場が完備されると足を運びやすい・近隣の市からもバス等のアクセスがあると良いと思う

予約等が不要で先着で使えるテニスコートや屋外のバスケットコート等・市のシステムで登録等は少々非効率

学生の活躍を期待しています

ドッグラン併設

京都風の庭園の雰囲気もあれば素敵だと思います。

5. 市民アンケート

小さな子ども連れでも気軽に来られるように、授乳室やおむつ替えシートは必要だと思います。
無料の駐車場がたっぷりある
公益施設に伴う、駐車場や円滑な交通事情(特に渋滞対応)
気軽に立ち寄れる場所になればよいと思います。
ゴミなど落ちていない清潔な場所
当該施設の詳細について、知識が不足しているのかもしれませんが、目的が曖昧・後付けであるハコモノに感じられることが残念です。
子供連れも利用しやすい施設にして欲しい
瀬戸などの直行バスも繋げる
刈谷ハイウェイオアシスや常滑イオンのような、リーズナブルに思い切りたのしめる場所にしてほしい
観光発信
ドッグランや動物(ウサギ、モルモットなど)との触れ合いスペースがあれば嬉しい。
古戦場公園から徒歩圏内に100円均一がないので、あれば嬉しい。
維持費にお金がかかるものは良くない。
よくわからない
素晴らしい案だと思う。テーマパークのような楽しいイメージを大切にしながらも、しっかりと学びがある場所にしてほしい。 文化会館や図書館は一部の人しか利用しないけど、リニモテラスはみんなが気軽に利用できる場所にしたい。
駐車場に充電スタンドを設置してあれば、より便利。
リニモテラス公益施設、大いに期待しています。今後長久手はイオンやイケアなどもできますが、長久手市民が楽しめて参加出来る施設を是非作って欲しいです。
初めて来た人でも、どこに何があるかわかりやすい表示を掲げて欲しい。
よくわからない
老若男女、全てが集えて、いつも常に新しい発見があるような場所があるといい。
市として、何を柱とするか方向性をしっかり持ったうえでどうするか投げかける方がまとまりやすいのではないと思う。これで方向性を決めるのであれば、質問が具体的過ぎるのかもしれない。 全ての意見を受け入れることは中途半端な結果になりかねません。焦らず、じっくり考えて、他市町の成功例を参考に長久手らしさを出してください。
イベント開催の拠点になると嬉しいです
規模が分からない？
大きな花壇があると嬉しい
子供たちが自由にノビノビと遊べる場になるといいと思う。
ミニコンサートとか開催して欲しい
特になし
フリーのWi-Fi設備は必須だと思います。
グリーンベルト(日陰)そよかぜ、静かでのどかで安らぐイメージ

5. 市民アンケート

公益施設も大事ですが交通整備をしっかりと願います。折角いい施設があっても渋滞では利用出来ません。地元住民にとって迷惑な施設になるような事だけはやめて頂きたいです。
小さい子供がいるとなかなか外出がしづらいので、家にこもりがちになってしまう。そういう人でも気軽に行けて、同じような状況の人と交流できるような施設にしてほしい。
再就職の相談やそのための訓練センターがあるといい。
ふらっと行って楽しめる感じがいい。駐車場もあるといい。
年金生活者が増え医療費負担が増える中上記施設があれば音楽や健康体操などいろいろ企画出来る。
はなみずき駅で、冬まつりのイベントを行っているが、このテラスに変更してもいいのではないかと思います。
カフェを併設してほしい
ハードではなくソフトから。 主体となって運営する市民団体を作りたい
子育て家庭を主要ターゲットに見据える
市役所が古く、手狭にみえるので、一部機能を移してもいいのでは。
交流の押しつけ施設だけにはしてもらいたくない。訪れる者が自然体で学び、交流できる施設が望ましい。
運営については、市がある程度関与しながらもNPO法人に委任する方法(指定管理)が望まれる。
オープンカフェテラス、月1回程度バザーをやるなど。芝生のある野外劇場などあれば良い 文化的な創造活動が発信できる場が望ましいと思います。スポーツ施設はほかにもたくさんあるためできればヨーロッパのようにアルコールを提供する(バルとか・・)。
人が集まるとゴミがでるが、きれいな広場であるようにして欲しい(ゴミポイしにくい場)また、町全体に看板が見苦しい。グリーンロードの雑草。町並みづくり。
生涯教育が実施できるスペース。
老若男女が楽しめる卓球台がほしい。仕事帰りに気軽にスポーツ楽しめれてイオンで一杯飲んでリノモで帰りたい。
学生さんが学生さんならではの情報発信ができる場になると楽しそう。また地域を愛する人が地域の良いところを紹介してくれるような場や情報があると良いと思います。
市の中心コアとし、市役所とシャトルバス等で結び一体化するとよい。
長久手は図書館を強化した方がよい
子どもたちがスポーツ遊具で身体を動かして学べ、講座などで大人も子どもも学べる場であれば良いと思います。 今の図書館は手狭で駐車場も使いづらいので、支所でも良いから図書館があると良いと思います。
イベント的なものは一時的なもので終わってしまう。定常的に、特に平日昼間に利用できそうな高齢者や小さな子供とその保護者に合った空間と、そこへの容易なアクセスがあると良い。
福祉・・子育て・・・そういうものは、街が活きていけば自然とついてきます 付け焼刃の理想論に流されず、持続可能な活きた施設にしていきたいと思います
古戦場駅バスターミナルでは今後、深夜運航のバスの発着もあるかもしれません。近くに雨風をしのぐ場所がなければ利用者はどうすればいいのか・・そんな人も救い上げれる様な機能があれば良いなと思います

5. 市民アンケート

長久手の治安を維持してください

自分たち学生も使いやすい場所にしてください

気軽に立ち寄れる場

24時間施設がほしいです

映画館

みんなが集まりやすい雰囲気

道路整備してほしい

愛知医大⇄古戦場のシャトルバスがもっと本数があれば行くかもしれない

車の渋滞をしないようにしてほしい、カフェのようなものがあれば良いと思う

姫路駅北駅前広場（兵庫県）

市民が関わるパブリックスペースのデザイン～市民・行政・専門家の創造的連携

- 計画段階／市の基本レイアウトが変更されるまでのプロセス
- 設計プロセス段階／各組織が連動して展開した合意形成のためのダイナミックなプロセス
- デザイン段階／パブリックスペースにおけるデザイン調整の重要性と各パートにおけるデザイン手法
- エリアマネジメント段階／ハード整備の市民公開プロセスを受けて、市民主体のエリアマネジメントへ

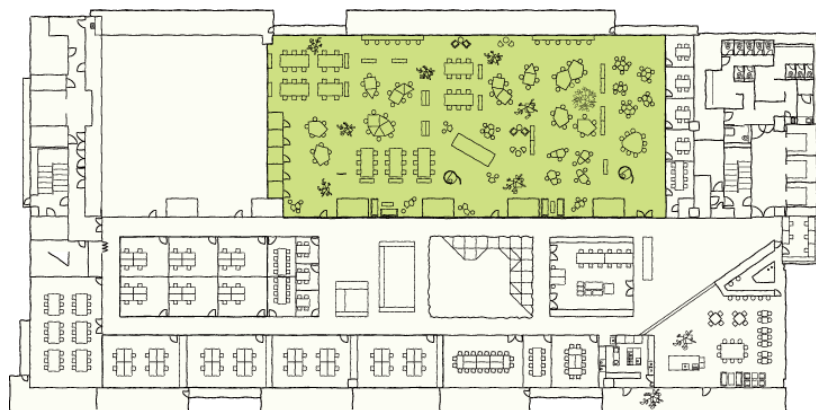
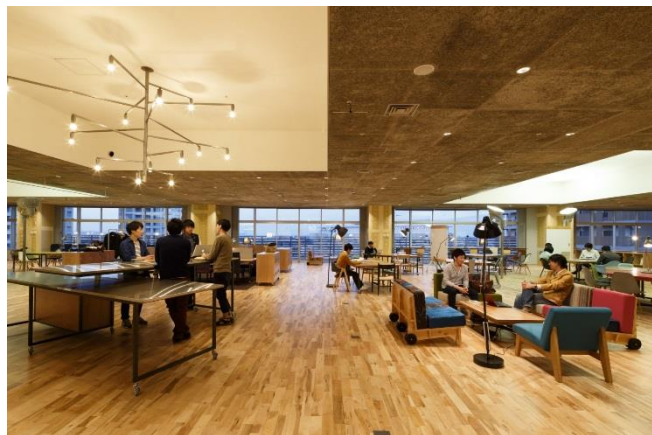
※2012年11月に、一般社団法人ひとネットワークひめじが設立され、運営管理が行われており、活用可能な公共領域の確保と、活動促進を行っている。（土日の活用はほぼ100%、月の稼働率も50%を超えている）



柏の葉 オープンイノベーションラボ KOIL（千葉県）

予想外の使われ方が生み出される、未完成を意図した空間

イノベーションセンターとは、企業や個人が従来の枠組を超えて協働するプラットフォームのような場所である。KOILでは分野を横断するコミュニケーションを円滑にするため、一つのワークプレイス内に、集中する・くつろぐ・プレゼンテーションする・作る・食べるなど様々な機能を内包する。



SHIBAURA HOUSE（東京都）

透明感あふれる「ビル型公園」は、運河の街の新たな憩いの場

SHIBAURA HOUSEは、近くに暮らす子供や母親をはじめ、会社員、そして海外からのゲストも集まるコミュニティスペースとして運営しています。料理や英会話のクラスから、海外のゲストを招いたレクチャーまで、年間に100回をこえる文化的プログラムを実施しています。さらに1Fは誰でも無料で出入りができる公園のような場として開放。ランチタイムには会社員や近所の人々で賑わう光景をみることができます。



アオーレ長岡（新潟県）

「21世紀の市民協働型シティホール」の誕生！

vitalization case 04 [アオーレ長岡]

自然エネルギーの活用とナカドマ

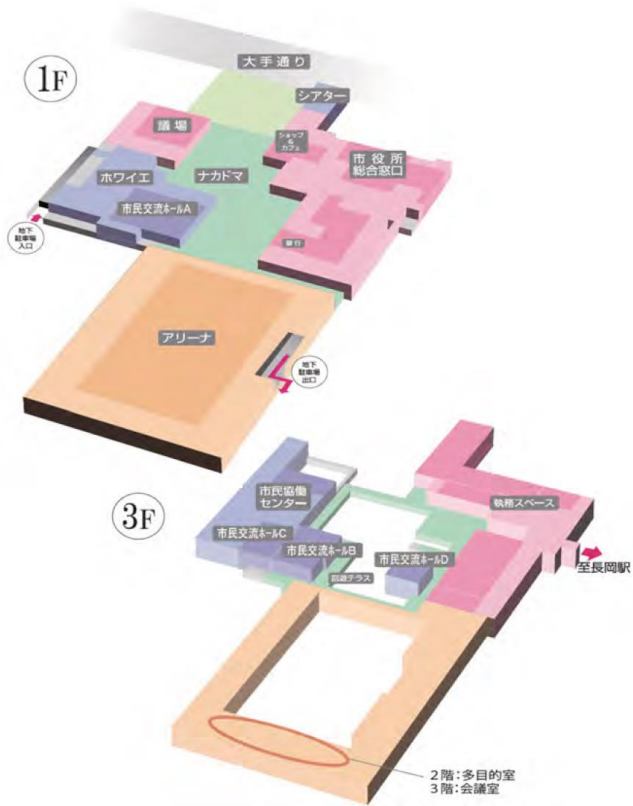
アオーレ長岡は、敷地の中央に大きく開かれた屋根付き広場(ナカドマ)が配置され、その外側を囲むように建つ3つの棟で構成されています。これは、設計者 隈研吾さんの設計コンセプトの一つでもあり、この“まちに開けたナカドマ”は施設の象徴となっています。

建物の中と外とをつなぐこの空間は、誰もが気軽に立ち寄り、憩い、活動することができます。言わば市民が主役の活動空間であり、この内を開き外に閉じる建物配置や構造が、施設全体のエネルギー負荷を軽減し、かつ外と内部の染み出しをナカドマで緩衝する「省CO₂型サステナブル建築」です。自然原理に受動的に対応し、無理なく環境の調整を行うパッシブな設計で、太陽光や風、雨や雪などの「自然エネルギーの恵み」を建物全体で取り入れる、環境との共生による省CO₂を実践し、冬期間における市民活動の可能性も広げています。

官民協同の エネルギーサービス事業

アオーレ長岡の環境技術の核となる「天然ガスコージェネレーションシステム」は、建設段階から現在の運用・管理に至るまで、地元事業者等の資金や民間のノウハウを活用した「エネルギーサービス事業」として展開しています。

発電時に出る排熱を空調熱源以外の融雪にも有効活用するエネルギーのカスケード（多段階）利用システムの管理や、運用時における省CO₂の評価及び改善手法の検討等、専門性が必要な分野について民間事業者が官を補完する協同事業です。エネルギー効率のベースラインの設定や省CO₂を担保する契約形態が相互利益を生み、アオーレ長岡における省エネ管理の徹底と省CO₂の実現へ官民協同で取り組む原動力となっています。



アオーレ長岡配置図



自由な発想で多様な使い方ができる「ナカドマ」

6. 先進地事例

市民協働・交流の拠点として

江戸時代の長岡藩から受け継がれてきた長岡市民の“市民協働”の精神は、今、このアオーレ長岡を拠点に展開しています。「市民力のまち長岡」らしく、市民の活動を市民組織がサポートする体制をアオーレ長岡のオープンに合わせて構築しました。アオーレ長岡の市民スペースの運営を市民組織が行うことで、利用者と同一市民の視点だからこそ可能な、柔軟でより自由度の高い運営が実現しています。行政は、この市民活動が安全・安心そして安定して展開できるよう、省CO₂技術をはじめとした施設の維持管理などのハード面をサポートします。オープンから3年目を迎え、行政主導ではない市民発想により作られる民間のイベントが年々増加し、今では年間120万人を超える人が訪れる（※）新しい長岡の「顔」となっています。

「良いソフトは計画的に設計された良いハードから生まれる」という理念から始まったアオーレ長岡計画は、行政の予想を超え、市民の自由な発想により日々成長を続けています。

（※総合窓口（市役所）利用者を含む）



今後の展開

アオーレ長岡の運営を支えてきた市民組織は、平成26年6月にNPO法人となり活動の舞台を中心市街地全体に広がっています。今後、アオーレ長岡を核としたまちづくりが、現在進められている中心市街地における再開発事業を含め、市民との協働でよりいっそう進んでいくことが期待されます。



「アオーレ」は長岡地域で
「会いましょう」を意味する方言

参考文献：アオーレで、あおうれ。ー長岡市の挑戦ー（発売所 丸善出版）

■施設整備から運営まで、市民協働のプロセスが分かる別添資料を提出



6. 先進地事例

市民交流ネットワーク「アオーレ」役員名簿

No.	役 職	氏 名	肩 書 き
1	顧問	二 澤 和 夫	長岡観光コンベンション協会会長
2	代表	神 林 茂	前長岡市商工部長、元企画部長
3	副代表	樋 熊 隆 治	アオーレ長岡イベント検討市民協議会会長
4	理事	安 藤 栄 治	大手通商店街振興組合理事長
5	〃	猪 俣 元 英	長岡市商店街振興組合連合会事務局長
6	〃	大 井 盛 久	シティプロモーション推進会議幹事長
7	〃	小 川 峰 夫	NPO法人まちなか考房代表理事
8	〃	小 林 均	(財)長岡市体育協会専務理事
9	〃	佐々木 保男	(社)長岡観光コンベンション協会専務理事
10	〃	佐 竹 直 子	多世代交流館になニーナ代表
11	〃	鈴 木 蔵	(財)長岡市芸術文化振興財団専務理事
12	〃	田 中 仁	古志の火まつり実行委員会委員長
13	〃	長 尾 弘	長岡市民合唱団団長
14	〃	樋 口 勝 博	NPO法人復興支援NWフェニックス代表理事
15	〃	星 野 正 子	NPO法人緑うるおう栃尾を育む会
16	〃	松 野 卓 和	長岡商工会議所青年部会長
17	〃	村上 揚市郎	(社)長岡青年会議所理事長
18	〃	山 田 勝	NPO法人和島夢来考房理事長
19	〃	山 村 雅 隆	長岡商工会議所専務理事
20	〃	渡 辺 千 雅	長岡フィルムコミッション代表
21	〃	山 崎 茂 樹	長岡市市民交流推進室長
22	監事	石 田 章	NPO法人復興支援NWフェニックス副代表理事
23	〃	星 雅 人	長岡市市民交流推進室次長

アオーレ長岡を運営・管理する「NPO法人ながおか未来創造ネットワーク」の前身である市民団体の名簿。代表の神林氏は、NPO移行後も代表理事を務める。

まちなかにぎわい広場グランドブラザ(富山市)

何も消費行動を起こさなくても、居続けることのできる中心市街地にある「まちなか広場」

まちなかの市道を拡張し、ガラス張りの大屋根がある広場に生まれ変わったことにより中心市街地に人が戻ってきました。官のウェイトが強いスタートから民の運営へと足並みをそろえながらの着地により、稼働率100%近くを維持。運営を担う人々のアイデアと使う人たちの視点に立った施設づくりへの姿勢が実を結んだ。

●完成前からの官民協働・・・活用委員会(役所+周辺店舗、利用者などが参加)

施設設計の見直しを行い、使い勝手の良い広場機能を持つことができた。

●にぎわいを創出する仕組みづくり

①開業後の一定期間は、貸出料を徴収せず、テレビ・ラジオ・新聞などメディア主催事業を誘致
報道効果により、集客がアップし、そのイメージが定着し、その後の利用の落ち込みはなかった。

②休日のにぎわいを定着させるため、土・日・祝の稼働率100パーセントにこだわった。営業はもちろん、自主事業も頻繁に実施。

③レイアウトが自由に行えるよな、可動性の高い什器、備品を配置

●広場に魂を吹き込んだ運営姿勢



7. パブリックコメント

①意見募集案件名

リニモテラス公益施設整備基本計画(案)

②募集期間

平成28年2月15日(月曜日)から平成28年3月15日(火曜日)まで

③閲覧場所

市役所本庁舎2階たつせがある課、市役所西庁舎1階情報コーナー、市ホームページ

④説明会

平成28年2月20日(土曜日) 午前10時から午前11時まで

会場:市役所北庁舎2階第5会議室

⑤募集結果

7名13件

⑤提出された意見及び意見に対する市の考え方

	意 見	市の考え方
1	リニモテラスの構想について、4つのテーマを見ても市長が言われる福祉のまちに関する案件がないのは、残念です。 現実問題として、大学生と高齢者とのつながりがどこにあるのですか？ 今後長久手市も高齢化が進みます。 福祉のまちに恥ずかしくないリニモテラスにしてください。 イベント的な考えは反対です。 もう少し高齢者のことを考えた構想にしてほしいです。	本計画の45ページに、4つのテーマを軸にしながらも、その枠にとらわれず多様なテーマ、分野とのつながりなどの新たなつながりをデザインする場として施設コンセプトを定めています。従いまして、多様なテーマ、分野には、高齢者のことも含むと考えています。
2	4つのテーマが独立するのではなく、互いに関連性を持ちながら多様(有機的)な交流によって、つながる事を期待します。	4つのテーマを軸にしながらも、その枠にとらわれず多様なテーマ、分野とのつながりのデザインが可能なプラットフォームとなることを目指します。
3	各小学校区の共生ステーションや長久手まちづくりセンターとの連携を視野に入れた拠点としての整備が求められます。これによって新しい関係が生まれ、取り組む内容についても視座が違う新規性のあるものが生まれる可能性が出てきます。	本計画の44ページに、まちづくりセンター、共生ステーション及びリニモテラス公益施設の連携について記載しています。

7. パブリックコメント

	意 見	市の考え方
4	事業を推進・運営するにあたって特に重要なことは長久手在住の人的資源をどのように有効活用していくかだと思います。市民の理解と参加は必要不可欠ですが、元気で有能な高齢者(シニア)が増加している現状でその豊富な体験や経験を生かさない手は無いと思います。彼らのアドバイスやコーディネート等のコミュニケーション能力が街の将来にとって大切な事です。また[何かしたい、人の役に立ちたい]との思いを持つシニアにとっても『まち・ひと・しごと創世総合戦略』～一人ひとりに役割と居場所があるまちづくり～に謳われているように社会での活動は生き甲斐や経済的な支援の一助になれば夢を持ってしっかりと働くことが出来るでしょう。	本計画の46ページ中のイメージ図のとおり、新たなつながりの主体者が、それぞれの得意とするものを持ち寄り、不足のものを補い合うことによって、より魅力的な取組が生まれ、リニモテラス公益施設の場の魅力が創造されていくと考えていますので、経験豊かな市民の活躍が不可欠と考えています。
5	施設について、中で何をやっているか分からない様な閉鎖的な空間だけで構成するのではなく、透過性の高い空間も意識しながら設計に組み込んでいただきたい。	施設については、外から中が見えるような開放的な施設づくりに留意して、施設計画を進めていきます。
6	活動を推進する上で柔軟な対応が出来るように大きな空間を可動式の間仕切りで区切れるような部屋もあれば、色々な可能性に繋がると思います(ギャラリー、講演会場、会議場、教室等)。難しいとは思いますが将来のことを予見してフレキシブルで成長変化する施設を考えることが望ましいと思います。	施設については、フレキシブルな会場利用ができる空間づくり、利用欲求の変化への対応力のある施設づくりに留意して、施設計画を進めていきます。 なお、具体的な施設の設備については、平成28年度に基本設計を進める中で検討します。
7	リニモテラス整備構想に「障がいがある人の地域参加と交流」という視点を加えてください。	本計画の45ページに、4つのテーマを軸にしながらも、その枠にとらわれず多様なテーマ、分野とのつながりなどの新たなつながりをデザインする場として施設コンセプトを定めています。従いまして、多様なテーマ、分野には、障がいのある人のことも含むと考えています。

7. パブリックコメント

	意 見	市の考え方
8	<p>上記7の視点に立って、以下4点の提案をします。</p> <p>(1) 施設・設備は、すべての人が使いやすい「ユニバーサルデザイン」とする。</p> <p>(2) 『児童発達支援センター』及び『障がい者相談・支援センター』を設置し、市民のニーズに応える。</p> <p>(3) 手話のできるスタッフを配置する。</p> <p>(4) リニモテラスに集う人たちと障がいのある人々がイベントや学習等を通して日常的に交流できる仕組みを作り、障がいのある人の就労や地域活動への参加につながるように支援する。</p>	<p>(1) 施設整備にあたっては、すべての人が使いやすいユニバーサルデザインとしています。</p> <p>(2) リニモテラス公益施設は、新たなつながりをデザインする場を施設コンセプトとしており、さまざまな団体・個人の活動により、つながりが生まれ、広がる拠点と位置付けていますので、この施設での各センターの設置については、考えておりません。</p> <p>(3) 具体的な人員配置については、平成28年度に基本設計等を進める中で検討しますので、ご意見を参考にさせていただきます。</p> <p>(4) (2)で記載したとおりリニモテラス公益施設は、さまざまな団体、個人が多様な分野で連携し、活動していくことを目標としています。障がいのある人との交流も含めた、新たなつながりをデザインする場としていきます。</p>
9	<p>造るからには存在感があり近隣からも大勢の人が集まるようなインパクトのあるものが必要かと思われます。</p> <p>他の物真似になるかもしれませんが、名古屋の大須、モリコロパークのからくり時計などは子供が大変興味深く関心を持っています。</p> <p>施設の中に、長久手合戦、棒の手、鉄砲に関する「からくり時計」を設置したらどうでしょう。</p> <p>予算が不足するようであれば、今流行りの、企業の宣伝として企業名を提示する等の手段で資金を獲得するなどで兎に角、その物だけでも見物客が来るようなのはどうでしょうか？</p>	<p>具体的な施設の設備や人員配置については、平成28年度に基本設計等を進める中で検討しますので、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
10	<p>休日夜間診療や、婦人科健診を受けることができる医療センターがあると住民は助かります。</p> <p>リニモ沿線で目立つので、看板見るだけでも市民も安心して暮らせます。</p> <p>名古屋市医師会で運営しているようなシステムを、他の医師会や健診会社に入札で業務委託契約し運営したら良いのではないのでしょうか？</p>	<p>リニモテラス公益施設は、新たなつながりをデザインする場を施設コンセプトとしており、さまざまな団体・個人の活動により、つながりが生まれ、広がる拠点と位置付けていますので、この施設での医療センターの設置については、考えておりません。</p>

7. パブリックコメント

	意 見	市の考え方
11	<p>常設の地域FM局を開局して、地域コミュニティの枠を通り越して情報発信基地としての場、それに加えて名古屋方面、豊田方面からの来場者が仲良く交流できる、三尾一体の場として整備。誰もが気兼ねなく入場でき、温故知新の精神に基づき、尚且つ最新情報を常に与え続ける恒久施設の充実を図ってほしい。</p>	<p>情報発信については基本計画においても重要な位置づけとして考えておりますが、インターネット配信、SNS等さまざまな情報発信手段がある現在、この施設での常設地域FM局の設置については、考えておりません。</p>
12	<p>「リーディングプロジェクト」との持つ理念と組織、運用が「肝」であり、この構想の成否を決定づけるポイントではないか？</p> <p>是非、市民、大学、学生、先進的な「学識経験者」など日本内外の知恵、交流、話し合いを通じて丁寧に進めたい。</p>	<p>施設コンセプトを推進していくために3つの仕組みが重要であると考えており、今後もトークセッションなどの話し合いの場を設けて進めていきます。</p>
13	<p>「大学連携」「多文化共生」「観光交流」「子育て支援」と何か関連性があるようで難しい項目、機能が並ぶ。</p> <p>この項目の最大公約数が、市民の他には「大学生」である。</p> <p>周辺も含めると13の大学・学園や高校があり、大学生は貴重な人材、資源、さらには主役の一方である。</p> <p>必ず、自主的活動の「場」としても、構想の中に「学生センター(仮)」を構築したい。</p>	<p>大学生との連携については、4つのテーマの一つとして大学連携を掲げており、本計画において重要な位置づけであると考えています。なお、具体的な施設の機能については、平成28年度に基本設計を進める中で検討します。</p>